

# 総務文教委員会

平成 2 7 年 9 月 9 日（水）

## 総 務 文 教 委 員 会

日 時 平成27年9月9日（水）午前10時00分開会—午後3時07分閉会

場 所 役場3階 第2委員会

出席委員 中原委員長、坂原副委員長、辻下、田島、竹原、  
道工議長、小川副議長、反保監査委員

欠席委員 なし

傍聴議員 奥野、和田、出口、和田

出席理事者 田代町長、中口副町長、種村副町長、笠間教育長  
保井まちづくり戦略室長兼町長公室長、古谷総務部長  
四至本財政改革部長、廣田（節）教育次長、西まちづくり戦略室地方創生企画監  
中田危機管理監、岸野総務部理事兼財政改革部理事兼まちづくり戦略室理事  
竹原会計管理者兼会計課長、阪本総務部副理事兼人権推進課長  
相馬財政改革部副理事兼財政課長、廣田（尚）まちづくり戦略室人事担当課長  
寺田まちづくり戦略室地方創生企画政策担当課長、澤税務課長兼行革推進課長  
川端まちづくり戦略室危機管理担当課長、今坂総務部総務課長兼法制文書係長  
松下生涯学習課長兼青少年センター所長  
森長教育委員会事務局指導課参事、保田教育委員会事務局指導課参事  
生涯学習課淡輪公民館長、竹下教育委員会事務局給食センター所長兼係長  
向井教育委員会事務局淡輪幼稚園長  
内山教育委員会事務局学校教育課主幹兼係長  
小川教育委員会事務局生涯学習課主幹兼係長  
南総務部総務課主幹兼総務管理係長

案 件

（1）付託案件について

(午前10時00分 開会)

中原委員長 皆さん、おはようございます。ただいまから、総務文教委員会を開会します。

本日の出席委員は8名、全員出席です。理事者についても全員出席です。

定足数に達しておりますので、本委員会は成立しております。

これより総務文教委員会を開きます。

なお、携帯電話はマナーモードに設定をお願いいたします。

9月2日の本会議において、本委員会に付託を受けました議案8件の審査を行います。

それでは、これより議事に入ります。

なお、発言者につきましては、必ずマイクのスイッチを入れてから発言をお願いします。

また、質疑についての理事者の答弁は、所属部署と氏名を言ってからお願いいたします。

また、私が質疑・討論するときは、副委員長に委員長の職務をかわっていただき、委員長席のまま質疑・討論することをご了承願います。

議案第54号「平成27年度岬町一般会計補正予算（第3次）の件」のうち、本委員会に付託された案件について、議題とします。

本件について担当課から説明を求めます。

内山教育委員会事務局学校教育課主幹兼係長 それでは、総務文教委員会資料の1ページをごらんください。

平成27年度岬町一般会計補正予算（第3次）の件のうち、総務文教委員会に付託されました歳入歳出予算につきましてご説明いたします。

なお、本歳入歳出予算で計上しております深日小学校保育所併設事業につきましては、歳入歳出予算全体の説明の後、お手元の保育所併設についての資料に基づきまして、事業概要等をご説明させていただきますので、長時間になると思いますが、よろしくお願いいたします。

では、歳入です。

18寄附金、1寄附金、小学校費寄附金といたしまして、10万円を増額補正するものです。

内容としましては、淡輪在住の方から淡輪小学校への指定寄附金の申し出があり、小学校教材費に充当するものでございます。

寺田まちづくり戦略室地方創生企画政策担当課長 続きまして、18繰入金、1基金繰入金、岬ゆめ・みらい基金繰入金としまして、121万7,000円を増額補正を行うものです。

内容としましては、詳しくは歳出で説明させていただきますが、1点目として、9月26日、27日に、東京で開催されるふるさと納税大感謝祭出店費用に係る経費に充当するための財源として49万8,000円、2点目として、教育委員会事務局で開催することも議会の運営経費として6万9,000円、3点目として、小学校高学年を対象としたキャリア教育の一環として実施する夢の教室事業の経費として65万円の計121万7,000円を岬ゆめ・みらい基金を充当して新たに予算措置するものです。

内山教育委員会事務局学校教育課主幹兼係長 続きまして、2特別会計繰入金深日財産区特別会計繰入金としまして、2,017万9,000円を増額補正するものです。

内容につきましては、歳出でご説明させていただきますが、深日小学校へ保育所を併設することに伴い必要となる経費について繰り入れるものでございます。

今坂総務部総務課長兼法制文書係長 続きまして、3多奈川財産区特別会計繰入金としまして、467万7,000円を増額補正を行うものです。

内容につきましては、歳出でご説明させていただきますが、中集会所改修工事実施設計業務委託料及び中集会所敷地内の里道の公用廃止業務委託料に充当するため、並びに朝日会館の公共下水道接続工事を実施するために、工事請負費に充当するものでございます。

相馬財政改革部副理事兼財政課長 続きまして、19繰越金、1繰越金、前年度繰越金といたしまして、2,538万9,000円を増額補正を行うものでございます。

内容といたしましては、平成26年度決算の確定に伴い、本補正予算編成に必要な財源を計上するものでございます。

以上、当委員会付託分、歳入合計といたしまして、5,156万2,000円を増額補正を行うものでございます。

今坂総務部総務課長兼法制文書係長 続きまして、歳出に入ります。

資料の2ページをごらんください。

2総務費、1総務管理費、4財産管理費、集会所維持補修費としまして、467万7,000円を増額補正を行うものです。

内容としましては、多奈川中自治区の中集会所の倉庫が、老朽化に加え、シロアリの被害が著しい状況にあります。また、集会所敷地内にあるとはいえ、離れた場所に設置されており、倉庫内に保管する備品の有効利用に支障を来している状況にあります。さらに、中集会所の敷地内には児童遊園や集会所利用者などの駐車場があり、敷地の形状が不整形であることから、防災訓練を実施することにも支障を来している状況にあります。

以上のことから、倉庫機能を集会所に増築することが有効であると考えますので、増築するための改修工事実施設計業務を委託するものです。

また、中集会所の敷地内に里道が存在しておりますので、敷地を有効利用するために、里道の公用廃止手続を行う必要があります。里道の公用廃止業務についても委託をするものでございます。

続きまして、朝日会館の公共下水道接続について、地元自治区より公共下水道接続について問い合わせがあり、調査したところ、接続されていない状況が判明しました。それで、早期に接続工事を実施するものでございます。

なお、財源については、歳入でも申し上げましたとおり、多奈川財産区特別会計の繰入金で充当するものでございます。

寺田まちづくり戦略室地方創生企画政策担当課長 続きまして、7企画費、ふるさと応援事業として、補正予算額49万円を増額補正するものです。

初めに、ふるさと納税大感謝祭について、簡単に説明させていただきます。

ふるさと納税大感謝祭とは、ふるさと納税による税収の増加と地場産業の発展や観光促進の実現に感謝するイベントで、記念すべき第1回目となる今回のテーマは「ふるさとからの恩返し」として開催されます。全国40の自治体が終結し、ふるさとをより身近に感じていただけるよう、各自治体による展示やお礼の品の試飲、試食を行います。本イベントを通しふるさと納税がより一層理解され、広まり、地方創生につながることを期待されます。

それでは、内容について説明させていただきます。

特別旅費として14万3,000円、これは当日スタッフ3名分の旅費です。

続いて、消耗品費3,000円、食糧費13万9,000円、これは実際にお礼の品のワカメクッキー、和菓子などを試食、PRするものでございます。

続いて、通信運搬費5万円、これは岬町の観光パネルや、みさきーちょのマスコットキャラクターなどを運搬する費用です。

次に、イベント機材使用料16万3,000円は、ブース設営に必要とするレンタル用品となります。全ての経費については、岬ゆめ・みらい基金繰入金を充当することとなります。

澤税務課長兼行革推進課長 続きまして、2徴税費、2賦課徴収費、町民税過誤納返還金92万6,000円、及び固定資産税過誤納返還金194万6,000円を増額補正するものです。

内容といしましては、町民税過誤納返還金につきましては、修正申告に伴い生じた個人住民税の還付金額が47万1,400円、また法人住民税の確定申告により算出した法人税割額が前年の予定申告額を下回ったことにより生じた還付金額が65万4,500円。以上が主な要因となり、町民税過誤納返還金の決算額に不足が生じる見込みとなっております。

今後、還付が発生した場合に、速やかな還付事務を行う必要があることから、過去の還付実績等をもとに算出した年度末までに必要と見込まれる額といしまして、町民税過誤納返還金92万6,000円の増額補正をするものです。

また、固定資産税過誤納返還金につきましては、個人名義の土地が公共用地であることが判明し、平成10年度から平成24年度分、合計99万3,900円の還付金が生じたことが主な要因となり、固定資産税過誤納返還金の決算額に不足が生じる見込みとなっております。固定資産税過誤納返還金につきましても、今後還付が発生した場合に速やかな還付事務を行う必要があることから、過去の還付実績等をもとに算出した年度末に必要と見込まれる額といしまして、固定資産税過誤納返還金194万6,000円の増額補正をするものです。

森長教育委員会事務局指導課参事 続きまして、10教育費、1教育総務費、こども議会経費としまして、消耗品費6万9,000円を増額補正するものです。

内容につきましては、町制施行60周年記念事業の一環として、全小学校から選出された子ども議員によるこども議会の実施に際し、より効果的な授業となるよう、必要な名札、模造紙等の事務用品を購入するものです。

なお、財源につきましては、岬ゆめ・みらい基金繰入金を充当しております。

続きまして、同じく夢の教室事業としまして、夢の教室事業委託料として65万円を増額補正するものです。

内容につきましては、各種競技のトップアスリートが小学校5年生を対象に夢先生として教壇に立ち、夢の大切さを伝えることを目的とする教室を開催するものです。

なお、本事業は、町制施行60周年記念事業の一環として、11月に予定しております「ふれあい教育フェスタ」にて、夢先生による保護者対象の講演会の実施も計画しております。

なお、財源につきましては、岬ゆめ・みらい基金の繰入金を充当しております。

内山教育委員会事務局学校教育課主幹兼係長 続きまして、2小学校費、深日小学校保育所併設事

業としまして、2,017万9,000円を増額補正するものです。

初めに、深日小学校への保育所併設につきましては、かねてより教育委員会、小学校、PTA等の関係機関におきまして協議を行ってきたところですが、このたび関係機関での協議が整ったことにより、来年4月をめどに保育所を併設することになったもので、そのために深日小学校に保育所を併設するに当たり必要となる受け入れ体制の整備等について増額補正をするものです。

内容といたしましては、保育所の併設に伴い移動が必要なる備品等の運搬業務委託料100万6,000円、各教室の改修や設備の移設、整備に係る工事費1,405万6,000円、カーテン等の整備に係る庁用器具費51万7,000円、エアコン等の整備に係る機械器具費460万円を増額補正するものです。

財源につきましては、歳入でも申しあげましたように、深日財産区特別会計繰入金充当しております。

続きまして、同じく小学校改修事業費の小学校改修工事といたしまして、115万6,000円を増額補正するものです。

内容といたしまして、多奈川小学校の水道使用量が今年度に入り増加したため、調査を行ったところ、体育館裏のコンクリート土間部に埋設している給水管の一部で漏水をしていることが判明いたしました。

当該給水管が埋設している箇所につきましては、地面がコンクリート土間部であり、漏水箇所の詳細な特定が難しく、また今後、万一漏水となった場合に漏水箇所の特定を容易にするために、体育館裏のコンクリート土間部の埋設管、約75メートルですが、につきまして露出管への改修を行うものでございます。

続きまして、同じく小学校教材費の図書購入費といたしまして、10万円を増額補正するものです。

内容につきましては、10万円の寄附金を活用しまして、淡輪小学校に10万円の図書の購入をするものです。

以上、当委員会付託分計といたしまして、3,020万1,000円を増額補正するものです。

中原委員長 ただいまの説明に対しまして、委員の皆さん、質疑ございませんか。

反保委員、どうぞ。

反保委員 ちょっと1点。

中原委員長 済みません、説明まだあったね。失礼しました、委員の皆さん。別冊として配付をさせていただきます「岬町立深日保育所の深日小学校への併設について」という資料について、あわせて説明するってちゃんと言ってくださってましたのに、うっかりしておりました。その説明を聞いた後に委員の皆さんのご質問をお聞きしようと思います。

説明を続けてお願いいたします。

内山教育委員会事務局学校教育課主幹兼係長 続きまして、本補正予算で予算計上しております深日小学校への保育所の併設事業につきまして、改めてお手元の資料に基づき補足説明をさせていただきます。

まず、資料の構成ですが、1 ページから 3 ページが深日保育所の現状と課題、保育所の小学校への併設のメリット、今後の具体的な運営方針等となっており、4 ページは、深日小学校の保育所併設教室移動案で、5 ページは、保育所を併設するに当たり必要となる学校の受け入れ体制の整備について、本補正予算で計上している事業費の内訳と財源内訳となります。

それでは、1 ページをごらんください。

1、深日保育所の現状と課題ですが、まず保育内容についての現状と課題をお示ししております。

次に、保育施設の現状と課題についてですが、深日保育所への進入路は、消防車など緊急車両が通行できず、建物も老朽化し、耐震性の確保も問題となっております。

次に、2、小学校への併設についてで、保育所を小学校へ併設するに至った経緯ですが、ゼロ歳から 12 歳までの子どもの育みを見通して、保育所から小学校への移行ができるように、保育内容、教育内容を相互理解し、就学前教育と学校教育をつないでいく取り組みや、教職員や子どもたちの交流を図っていくことが必要となっております。

また、保育施設は多くの乳幼児等が 1 日の大半を過ごす生活等の場であり、地域住民の避難施設としての役割も担っております。耐震性が確保された保育所づくりが必要ですが、深日保育所は建築から 37 年が経過し、年々修繕箇所が多くなっている状況にあります。

このようなことから、平成 26 年度で耐震工事が完了した深日小学校への併設について、関係機関で協議を行ってきましたが、このたび協議が整ったことにより、平成 28 年 4 月をめどに保育所を併設する予定としております。

2 ページをごらんください。

次に、3、小学校への併設のメリットですが、児童数の減少による交流人数の規模が狭



くなっている、兄弟が少なく、縦のつながりが希薄になっている、集団で遊ぶ経験が少なくなっている、などの課題に対応できることが挙げられます。

次に、4、平成24年4月に移設した多奈川保育所の小学校併設のメリットですが、多奈川保育所、小学校では、異年齢の子どもたちが交流を通じて相互に教え合い、学び合い、ともに育み合うことを念頭に保育、教育を実践し、次のようなメリットが生まれています。

児童の保護者が保育所に子育て相談等に訪れやすい。入学前から小学生と交流することで、スムーズに小学校生活に溶け込めるなどが挙げられます。

次に、5、具体的な運営方針ですが、3ページをごらんください。

2、保育、教育の内容について、多奈川保育所、小学校での交流授業を参考としながら、深日地域として特色のある保育、教育内容をつくり上げていくため、合同会議を立ち上げ、交流事業等について調整していきます。

3、管理体制、行政の支援について、併設後の円滑、一体的な運営のための管理体制として、学校長と保育所長の役割を明確にし、円滑な連携のもと管理運営していきます。

なお、下段のグラフにつきましては、深日保育所、小学校児童数の推移となっております。下の棒グラフが深日保育所児童数の推移となっております。

平成22年度の保育所児童数は82人となっておりますが、これは多奈川保育所を統合していた年で、深日地域の児童は49人となっております。

次に、4ページをごらんください。

保育所併設についての併設移動案となっております。黄色の箇所が、保育所が設置される箇所となっております。青色の箇所が、保育所が設置されることに伴い、移動が必要となる学校の教室で、その改修等につきまして事業費が必要となる箇所となっております。緑色の箇所につきましては、同じく移動が必要となる学校の教室ですが、その改修につきましては、事業費が必要とならない箇所となっております。

なお、校舎の枠外に記載しております点線で囲っている教室につきましては、現行の教室の名称ということになっております。

次に、5ページをごらんください。

保育所を併設するに当たり必要となる学校の受け入れ体制の整備について、本補正予算で計上している事業費の内訳と財源内訳となります。

事業費の内訳については、受け入れ体制の整備に当たり必要となる教室整備費と、その関連事業費から成っております。

教室整備費につきましては、移動が必要となる教室の改修費用と備品の整備費用となっており、移設後のPTA室、校長室、ひまわり2、地域安全センターについては、空調整備の費用が含まれております。

関連事業につきましては、保育所併設に当たり、移動整備が必要となる各種設備機器の事業費と、小学校備品等の運搬業務委託料となっております。

主なものとしましては、機械警備設備移設につきましては、現在の職員室、校長室の機械警備設備を新たな職員室、校長室へ移設するもので、消防設備整備につきましては、保育所の併設に伴い必要となる誘導灯、煙感知器の設置、自動火災報知設備受信機の移設などとなっております。高圧受電設備工事につきましては、保育所の併設に伴い、現在のトランス容量に不足が生じる見込みであるため、トランスの容量の増設等を図るものです。

以上が関連事業費の主な内容となります。

最後に、財源内訳につきましては、全額深日財産区からの繰入金を充当となっております。

以上が、深日小学校保育所併設事業の概要となります。

中原委員長 先ほどは失礼いたしました。

改めまして、説明に対して質疑をお受けしたいと思います。

反保委員、どうぞ。

反保委員 それでは、1点質問させていただきます。

先日、和田議員から一般質問もありましたけど、この中集会所改修工事業務委託料というのが出ておりますが、先ほどの説明では増設をするという内容のことが言われてました。これはどこの場所でどのような形のものができるといえるような予定になっているんでしょうか。

中原委員長 答弁、どうぞ。

今坂総務部総務課長兼法制文書係長 現在のところ、中集会所の裏側に土地がありますので、そちらのほうに増築するということを検討しております。この検討につきましては、もちろん、地元自治区と調整しながら、今後実施設計していく予定でございます。

中原委員長 反保委員、どうぞ。

反保委員 ということは、現在、中集会所は道から見たら奥に長く出ているような形ですけど、それをつなぐのでなしに、別個の建物になるのでしょうか。

中原委員長 答弁、どうぞ。

今坂総務部総務課長兼法制文書係長 現在は増築ということになっておりますので、利便性等を考えまして、中からつながっているような状況を考えております。これにつきましても、今後の検討という形になりますけれども、今のところの予定は以上です。

中原委員長 反保委員、どうぞ。

反保委員 今、葬儀があるときに、本体のほうでお葬式があつて、お坊さんが歩いて奥のほうから会場へ出てきているというのを見かけますけど、これはそうしたら将来的には、外へ出ずに、もう中で通路みたいになるような形になっていくのでしょうか。

中原委員長 答弁をお願いします。

今坂総務部総務課長兼法制文書係長 その件につきましても、地元の要望の中では、外部のプレハブで僧侶の方が着がえ等をされておりますので、その辺についても増築をした中で、中で一体的に利用できるように、今後考えていく予定でございます。

反保委員 ありがとうございます。

中原委員長 ほかの委員の皆さん、いかがでしょうか。

道工委員、どうぞ。

道工委員 1件教えてください。夢の教室事業なんですけど、トップアスリートが来られるということで、どういう種目で、どういう方を要請する予定しているのですか。

中原委員長 答弁をお願いします。

森長教育委員会事務局指導課参事 トップアスリートにつきましては、オリンピックのシンクロナイズドスイミングの元五輪代表の石黒由美子さんを招聘すると考えております。

中原委員長 道工委員、どうぞ。

道工委員 1名だけということですか。

森長教育委員会事務局指導課参事 1名は石黒さんで決定しているのですが、もう1名呼び出す予定をしております。その方につきましては、まだ決定をしておりません。

中原委員長 道工委員、はい、どうぞ。

道工委員 シンクロナイズドであれば、実演やってもらわれないかな、もうその場で何かやるだけですか。

中原委員長 はい、答弁をお願いします。

森長教育委員会事務局指導課参事 本事業につきましては実技教室ということではありません。あくまで夢の大切さについて、そのトップアスリートがその夢を実現する過程の話をする事によって、子どもたちが夢を持つことの大切さを今後につなげていくという事業でございます。

いますので、実技というのは内容には含まれておりません。

道工委員 はい、結構です。

中原委員長 ほかの委員、関連で。

竹原委員、どうぞ。

竹原委員 とてもいい事業かなと思いますが、先ほどの説明では、5年生を対象にということを聞きましたけども、6年生ではなく、4年生でもなく、5年生になった理由というのをひとつお願いします。

中原委員長 答弁どうぞ。

森長教育委員会事務局指導課参事 5年生というのは、これを主催しておりますJFA、日本サッカー協会の規定にも小学校5年生が対象であるとなっておりますが、本来、6年生でも4年生でも夢を持つ事業の大切さについては伝えるべきであるというようなお考えはもちろん十分理解をしております。ただ、なぜ5年生かと言われるすと、国のキャリア教育推進の中も、5、6年生が夢を持つ大切さを実感して、中学校に上がっていきます。もし6年生で実施をしてしまうと、あとは中学校にお任せするということになります。せっかく小学校で実施するわけですから、5年生でそれを実施し、それを受けて、もう一年かけて、その夢の大切さについて小学校で子どもたちに伝えて、中学校に送るというのがいいのではないかと理解しております。

中原委員長 竹原委員、よろしいですか。

竹原委員 はい。

中原委員長 ほかに委員の皆さんいかがですか。

田島委員、どうぞ。

田島委員 特別会計の繰入金の部分についての点と、そして、先ほど深日保育所の統合の部分についての説明の中で、一応、統合におけるこの地図を見せていただいたんです。それで、確認だけしたいんですけども、この保育所と小学校との各施設の配分ですね、配分割合については何ら無理がなかったか。多奈川小学校の例を見て、深日小の場合は多奈川小学校に準じたそういう施設、教室等々の配分割合を検討して、こういう図式にしたということの説明をいただきたいなど。

ただ、らせていただいたんですけども、小学校の部分については、校長室とか校務員室とか、そういう余裕のあるスペースが配置されておりますわね。ただ、本日、委員会が違いますので、担当の職員がいないんですけども、深日保育所の場合は、職員室のみで、や

はり一応、組織の長として保育所長のそういうスペースが設けられてないので、これは保育所からは希望しなかったのか、それとも必要がなかったのか。やはりこういう生徒数の問題じゃなしに、やはり長がつけば、一般職との勤務室も大事ですけども、いろんな保護者会、いろんな対外から来られた場合、職員室でそういう大事なお話はできないと思うんです。そこで、スペース的に許されるなら、そういうスペースも確保してあげないと、一応その施設の長となれば、やはり所払いもしたい場合もあるし、いろんな事業を進めたい場合がありますので、極端に言ったら、町長室がないみたいな感じになるんですね。結局、代表として長が務めるところは、やはりいろんな場所を設けてあげてほしいなということ、今ちょっとふと思ったわけです。だめならだめで結構ですよ。やはりないものは創意工夫して使っていただかなあかん。しかし、スペース的に十分いけるのだったら、設けてあげてほしいなと。私、所長と何の関係も因果もないですよ。しかし、対外的にやはり必要でないのかなということをこの場でちょっとお聞きしたいのと。どうしてもスペース的にだめ、予算的にだめだったら、それで結構です。将来的にそういう場所を確保してあげてほしい部分と。

もう一点の部分、今回、教育とか子育てに財産区のほうが理解いただいて、一般会計に繰り入れていただいた。これは本当にありがたい話でね、やはり深日地区の財産区を利用してやはり子どもたちの将来の教育のためにこれだけの金額を補正予算に繰り入れていただいた。これはありがたい。

そこで、この財産区管理委員会でこの繰出金について、協議は恐らく委員会でされていると思うんです。どういような審議をされて、どういう議論があったという中身が見えてきませんので、本当にいいことですよ、ありがたい話ですよ。しかし、やはり民主主義というのは全会一致というのはおかしいもので、やはりお互いに意見というのがあって当たり前の話ですので、こういう議論があったけども、やはり財産区というのは物すごく理解があって、教育に協力してくれましたということを私も言いたいので、その内容があれば、内容を説明していただけたら、議事録もあると思うんですけども、そこまで求めませんので、口頭で結構ですから、こういう理解をいただいて、財産区の金を一般会計に振り込んでいただいたと、そういう何というんですか、ありがたい、いい話はやっぱり大いに広めていただきたいなと、かように思いますので、2点についてよろしくお願いします。

中原委員長 答弁をお願いします。

廣田（節）教育委員会事務局教育次長 1点目の所長室の件についてお答えをさせていただきたい

と思います。

深日保育所を小学校に併設する協議の当初の段階から、所長室については希望は受けておりませんでした。所管が違いますので、なぜ所長室がないのかわかりませんが、現状の淡輪保育所、深日保育所、多奈川保育所にも所長室はございません。

中原委員長 補足して。

笠間教育長。

笠間教育長 今回の件でございますけれども、淡輪幼稚園を一つ例にとりますと、教育委員会の範囲でございますけれども、園長室というのは置いておりません。ただ、来客の場合のソファは置かせていただいております、どこも就学前の教育の部分については、所長室を設けてないというのが現状でございます、委員の言われるとおり、あれば非常に活用できるのかなと思いますけれども、ただ、今この図面を見ていただいたらわかると思います。これにつきましては、4案の中から一番いいのを選んだ。これは喧騒感、子どもたちが別々の教育をすると、保育をするというようなことで、こういうような喧騒感のために分けているということで、スペースにつきましては、保育所のほうで若干我慢をしていただいているのかなとは思っております。

中原委員長 引き続いて、答弁をお願いします。

古谷総務部長 財産区のことにつきましては、私のほうからお答えさせていただきます。

繰入金、繰出金に係る件につきましては、深日財産区管理会は8月19日に開催させていただきました。私どもだけではなしに、関係しますしあわせ創造部、また教育委員会事務局からも出席をしていただいて、本日お示しのこの併設に係る別冊の資料がございますが、これについて同じ説明をかなり時間をかけて説明させていただいたところでございます。

財産区管理委員さんからは、最終的には結論から言いますと、同意をいただいたわけでございますが、管理委員さんのご意見なりを簡単に言っておきますと、やはり地元の小学生が通う施設であると、また保育所の子どもにしても、深日地区の子どもが多く行く施設であるということを想定されまして、賛同というか、むしろ積極的に、もう少しこの際だからもっと施設整備に力を入れてほしいというようなご意見をいただいたような次第でございます。

中原委員長 どうぞ、田島委員。

田島委員 保育所の所長室の場合は、恐らく本人は財政的に把握しており、無理なこと言えない、そういう謙虚な気持ちで言わなかったと、かように思います。当然欲しいものは欲しいと

思います。しかし、今日お尋ねしているのは教育のほうですから、やはり教育長、教育次長がそういう答弁しなかったと思うんです。ただ、疑問に思ったことを聞くのが議員の仕事ですので、将来的にそうして欲しいというのか、やはり外周の道路の拡幅よりも、やはりそういう一つの施設の充実を確保するのが優先的ですので、将来的に考えてあげてください。結構です。

そして、財産区の部分、大体中身が見えてきました。関連職員が出席した上での会議、これは本当にオープンでよろしいと思いますし、そして財産区の方は本当に教育に熱心な方で、より一層その施設の充実整備をしてくれという理解のある財産区管理委員会であって、本当に感謝することですので、ただ、今後とも財産管理、運営については慎重にしていきたいと、やはり深日地区の財産ですので、有効利用していただきたいなと思います。また、あと財産区の部分については、また別の件で質問したいと思います。この件については質問を終わります。

中原委員長 ほかに委員の皆さんいかがでしょうか。

竹原委員、どうぞ。

竹原委員 同じところ、保育所と小学校の併設工事ということですが、私の記憶では、以前多奈川小学校の中に保育所を併設するときに、工事費が高いということで、安くしろということのある議員がずっと言っておりまして、大方6,000万円の工事費が5,000万円ぐらいになったのかなと記憶をしております。今回場所が違うので、何とも言えないのですが、昨日の厚生委員会で5,175万1,000円ということと、本日の小学校のほうで2,017万9,000円と、合計おおよそ7,200万円がかかっておる。また、今定例会の当初で可決しました専決の分でも大方500万円ぐらいかかっていたのかなと単純に計算しますと7,700万円ぐらいかかっているのかな、多奈川の併設工事のことを思うと、大方1.5倍ぐらいかかっているのかなと思うんですけども、その1.5倍ぐらいになったっていう根拠っていうんですか、何とか安くしようとしたのかどうかというのを聞いてみたいなと思いますが。

中原委員長 答弁をお願いします。

廣田（節）教育委員会事務局教育次長 深日小学校に深日保育所を併設する段階におきましては、協議に入りました段階で、どの場所を保育所に提供するかということで、随分学校と協議を行ってまいりました。今回お示しさせていただく案に決定するまでにたくさんの案を学校と協議した中で、保育所として設置するのに、設置基準に添って設置できて、なおかつ

小学校としてどれだけ空間というか、動線を短くして、効率よく学校運営ができるかというところで随分協議を行ってまいりました。

4ページの図面を見ていただきたいんですけども、最初のころは、2号館ですね、特別教室棟を提供する案もございました。でも、こちらにも理科室、家庭科室など、特別に整備された部屋がありますし、こちらは深日財産区さんで数年前にきれいにしていただいたという経緯もあります。最終的にどのように整備をするかということで、現状の案に落ちついたわけです。

その中で、今回工事費が小学校として上がっておりますのは、職員室の移設に関する経費、それと校長室等の移設に関する経費が小学校の経費のほうを上昇させています。多奈川小学校の場合は、1階が空き教室で地域安全センターか何か動いていただいたような記憶はございますが、そもそも職員室棟とかが別棟であったので、併設に当たっての小学校の移設経費というのはほとんど発生していなかったと思います。

今回は、その移設する部屋の中で空調設備のある部屋がかなりございました。職員室、校長室、地域安全センター、PTAとか、空調を既に設置していたのですが、現状で使える空調につきましては、保育所のほうに置いてまいりますので、新たに空調の新設の経費が上がってまいりましたので、それで小学校としては経費が上がっております。

中原委員長 竹原委員、どうぞ。

竹原委員 今の説明をお聞きしまして、大筋理解できました。そう言えば、多奈川小学校の場合、職員室は動いていないなと思っています。

それで、職員室が動くことによって、集中管理をしているセキュリティーの面とか、建物自体が古いので、配線等々も大変なのかなと思いつつ、まあ希望なんですけども、事業費をやはり抑えていくというのも行革の一つかなとは思っていますので、必要なものは必要ですけども、この予算の中で不要なものがありましたら削っていただいて執行していただけたらと思います。これは以上です。

中原委員長 ほかに委員の皆さん、いかがですか。質疑ございませんか。

副委員長、坂原委員。

坂原副委員長 今の深日保育所の小学校併設についてお聞きします。

説明では、保育所の保護者、それから教育委員会、PTA等、納得したという話でしたけども、その併設について、小学校の先生ですね、教職員の方は十分納得しているのか、その辺をお聞きしたいと思います。



中原委員長 答弁、はい、お願いします。

廣田（節）教育委員会事務局教育次長 小学校の先生方ともお話し合いを持ってきております。その中で先生方の立場といたしまして、小規模校をどうしていくかという考え方について、教育委員会と当初開きがございました。それは文科省も推奨しております小規模校につきましては、統廃合に向けての指針も出されている中で、統合の考えはないのかということ、小規模校をこのまま維持していつて、どのように町は考えているのかというようなご意見をいただきました。

先生方の立ち位置と、教育委員会といたしましては、子どもたちのこと、学校のこと、もちろん最優先に考えますが、教育委員会の立場としては、まちづくりの一環として小学校をどのように位置づけていくかということも重要な方向性であると考えておりまして、本会議でも答弁させていただきましたように、地方創生に向けて人口の流出、人口を増やすという意味で、また防災、緊急時、災害時の防災の拠点として小学校を位置づけていくという点で、小学校を維持していくことが教育委員会としての方向性ということで示させていただきましたので、今後はその方向に向けてさまざまな施策を小学校と一緒に進んでいきたいと考えております。

中原委員長 坂原委員、どうぞ。

坂原副委員長 先ほどの説明でもありましたが、併設についてのメリットですけど、この内容では、大体保育所側から見たメリットだと思うんですけど、小学校側から見たメリットというのはいかがでしょうか。

中原委員長 はい、答弁お願いします。

廣田（節）教育委員会事務局教育次長 併設による小学校サイドから見たメリットについてお答えいたしたいと思います。

小学校といたしましては、まず学校に活気が戻るじゃないですけども、広い小学校でするので、学校に活気、交流に縦の広がり、豊かな心の育成に寄与というこの3点で考えております。

中原委員長 坂原委員、どうぞ。

坂原副委員長 わかりました。では、工事が発生すると思うんですけど、小学校では随分以前から耐震化工事で授業にも影響があったと思うんですけど、今回のこの併設についての工事に関して、騒音とかほこりとか、そういう影響はないのでしょうか。

中原委員長 答弁お願いします。

廣田（節）教育委員会事務局教育次長 小学校サイドの工事につきましては、職員室、主に工事として発生しますのは、職員室、校長室、それと校務員室とPTA室を2つに割るという工事がございますので、こちらが音の出る工事が発生します。この工事につきましては、土曜日、日曜日を重点的に工事させていただきたいと考えております。

保育所側の工事につきましても、今後細部については詰めていかないといけないのですが、大きな音の出る工事につきましては土日ということで、子育て支援課についても考えていただいているところです。

中原委員長 よろしいですか。

小川委員、どうぞ。

小川委員 この小学校と保育所を併合して、これは町の考え方として一歩進んだ事業と理解しております。ただ、今年の小学校の入学数は、多奈川小学校が11名、深日小学校が8名、淡輪小学校が八十数名だったと記憶しているんですけども、数字的に間違っていたらまた後で教えてください。

小学校と保育所を一体化して、併合して、これも一ついい考えだと思うんですけども、町長にお伺いしたいんですが、小学校の人数はこれからもどんどん減っていくことは、これはもう事実だと思うんです。例えば淡輪小学校、深日小学校、多奈川小学校を一つにして、例えば保育所も一つにしてという、これ確かにメリットもあるかもしれないけども、デメリットも必ず出てくる。賛成もあるかもしれないけども、反対も出ると思います。これはもちろん小学校と保育所を一体化したことについては評価をするものでありますが、そのような考え方は議論の中で出なかったものでしょうか。

中原委員長 答弁をお願いします。

田代町長 今、委員さんおっしゃる理論も一つあるかなと思います。小学校の3校を1校にする方法、3保育所を1所にする方法、またそこへ幼稚園を入れる方法、いろいろ手法はあると思います。経済的な面、つまり財政的な面からいけば、その方法が一番いいのじゃないかなと、私もそう思います。

しかし、まちづくりっていうのはそうじゃなくて、地域全体がやはり活性化していく、地域の力をつけていくというのは、やはり3校があることによって、子どもたちがそこで賑わうことによって、大人も子どもも一緒になって地域の力をつけるということが一番大事だと、そういう意味からいえば、各地域に学校、保育所、幼稚園があることが一番好ましいかなと思っております。

私は地元で生まれていませんので、もう一つその辺はわかりにくいのですが、私の生まれた里、また岬町のことを考えますと、過去に小島、東畑、西畑、孝子、そういったところに分校なり小学校があったかのように聞いておりますし、私どもそういうのがありました。その学校が閉鎖することによって、現実にはどうかと言ったら、小島にしても、特に西畑、東畑、孝子はうまく歴史館を活用した中で子どもさんの数も増えてきていると聞いております。そうすれば、やはり地域に学校を残しておくということは、また保育所を残しておくということが町の体をなす。つまり町全体がやはり活気づいて良くなると考えたほうがいいのかないかなと。もちろん財政面もありますけども、お金を考えるか、それとも地域の活力を図るかということになると、やはり地域全体のことを考えた中でやっていく。

例えば、今おっしゃるように、小学校3校を1校にした場合、もう既に耐震化が平成27年度に終わります。これをいわば学校を残すという前提のもとで耐震化をやってきたという経過がありますので、このことを踏まえた場合、やはり今保育所を新しく建てかえるよりも、空き教室のいわば多い小学校に併設する、その後人口が減少してくる、また人口がやや止まってくるということになれば、その時点でしっかりとまた次の施策を考えたらいいのかないかなと思ひ、当面は町が衰退する中で、特に限界集落と言われている岬町の地域以外のところで、岬町のいわば山村といったらいいかどうか、お叱りを受けるかわかりませんが、そういったところも含めると、例えば多奈川小学校があることによって、近隣の地域がその学校へ行ける。例えば中心に建てるとしたら、今、恐らく人口のベッドタウンとかできておりますので、岬公園あたりが中心になってきているかなという感じもします。しかし、そうなった場合に、例えば多奈川の端の小島のほうからそちらへ行く、また孝子のほうから、今、淡輪の小学校へ通っていますけども、またほかのところへ移る。そういうことになった場合、子どもの将来のことも考え、また日常の通学、登下校のこともやはりしっかりと考えると、今の状況が私は一番いいのじゃないかなと、このように思っております。

例えば、深日の保育所を建てかえるとかなりのお金がかかるわけですね。そんな中で、保護者会議の中でも小・中一貫制はどうかという話もございました、今おっしゃるようですね。深日の中学校のそばに小学校3校固めて建てたらどうだと、そして小・中一貫校だったらどうかという話もございました。そうなった場合、せっかく淡輪に小学校があるからということで望海坂の方が岬町へおいでになった。そういう方がまた違う角度で子どもたちを他の学校へやらないといけな。そういったいろんな偏差的な問題が起きてくる

のじゃないかなと、こう思いますので、私はやはりスクラップ・アンド・ビルドと、こういいますように、今のある建物をしっかりと改善して、その中で子どもたちをしっかりと勉強なり学力なりつけていくことが一番いいのじゃないかな。

つまり、今、話が少し逸れて申しわけないんですが、教円幼稚園がかなりの園児数が増えているのはなぜかという、やはりそれもその教円幼稚園の考え方がしっかり子どもたちがそこへ行けるような状況を作っていくという、例えば、淡輪から見たら多奈川の端なんですよ。そこまで淡輪の方の子どもたちが、まあいわば保育所へ通っているということも聞いております。

ですから、そういった意味を考えると、今の小学校に併設するというのは、今の状況では私は一番必要だとそのように思っております。ですから、将来にわたっていろんな状況が起きたときには、またその時点で考えを、また計画を見直していく方法もあるかと思えます。

中原委員長 小川委員、どうぞ。

小川委員 町長の考え方と、そして行政の考え方、議論に議論を重ねて、こういう先ほども申し上げたけど、私は一歩進んだ企画だと、これは町として一番今の最大限いい方法だということはいくぶん理解もしているし、別にこれを否定しているわけじゃなしに、今後人口も減っていく、先ほど今年の小学校入学の人数を言った、多分合ってると思うんですけども、そうしたら、岬町で小学校の各学年の人数は約100名、中学校も百何十名です。それ合わせた分ですので、住民さんなり保護者の方に小・中一貫制、こういう意見も出た。先ほど当時、私らが子どものころは西畑、東畑、小島、これが分校ありまして、孝子小学校でも学年でも数十名の同級生がいました。どんどん減っていくことは事実なんですけども、孝子においては、閉校になったから、もちろんこれデメリットで、淡輪まで行ってはる。それなら行政の一環として、例えば小学校を一つにし、保育所が一つになれば、人件費も、校長先生が今3人いてるけども、それで教頭先生も3人、合わせて6人が2人で済む。4人分の人件費も浮くじゃないかと、これはすぐに今こうしようとかいうのじゃなしに、今後、町長も先ほどおっしゃってくださったので、いいんですけども、今後そういう時期的なものが来たら、そういうことも考えなきゃならない時期が来るのではなかろうかということは、今ご答弁されたので、私も同じ考えですので、もしそのときが来れば、そういう方向性も考えて議論を重ねて、より行革に対してでも前向きにまた検討していただきたいと思えます。

中原委員長 ほかに委員の皆さん、質疑いかがですか。

竹原委員、どうぞ。

竹原委員 今の小川委員の質問に関連してですけども、私も同じような意見なんですけども、一般質問でもさせていただきましたけども、校舎を統合しなくても学校機能だけ統合できるという方法が先行事例であるとも聞いております。というのは、小・中一貫のシステムの中で、学校名というんですか、校舎はそのまま、学校の中がシステムだけが統合するという方法もあるというようには聞いております。そういうような中身を教育委員会等で検討事案に上がっていませんか。

中原委員長 廣田教育次長。

廣田（節）教育委員会事務局教育次長 竹原委員のただいまおっしゃっていただいた内容について、一般質問の中で、教育委員会の現在の考え方については回答させていただいたと思います。竹原委員おっしゃっていただいているのは、建物の中でも一つにする、そういう取り組み方もあるという事例を挙げてご紹介いただいている中で、教育委員会としても、小・中一貫について、一緒にするのではないけれど、小・中の一貫教育については検討をしておりますし、早急に制度を導入していかなければいけない時期に来ていると考えております。答弁の中でもお答えいたしましたが、現在策定中の教育大綱の中では、小・中一貫教育についての考え方についても方向性をお示しさせていただいておりますので、その内容が決定されましたら、進んでまいりたいと思っております。

竹原委員 はい、結構です。

中原委員長 よろしいですか。

ほかに委員の皆さん、いかがでしょうか。よろしいですか。

（「なし」の声あり）

中原委員長 ないようなら、私のほうからも質問させていただきたいので、副委員長よろしく願いします。

坂原副委員長 では、委員長から質問がありますので、進行をかわります。

中原委員長。

中原委員長 委員会資料の別冊の「併設について」という冊子の4ページ、併設教室移動案の図面の中でお尋ねをしたいと思います。

小学校では、ホールとか分割室という名前の部屋があるんですけど、その用途といいですか、どういう目的でどういように利用されてるのか詳しくわかりませんので、教え

ていただきたいと思います。

それから、その分割室とホールについては、現在の状況でいきますと、それぞれの学年ごとに独立して、ホールまた分割室が利用されているようなんですけれども、併設の案としては、5年生と6年生のホールと分割室が合同で使う、また3、4年生の分割室というように合同になるのかなと思って見せていただいているんですね。これは運用上、今まで別々のものとして教室を設置していたわけですから、合同で使うということに支障はないのかどうか、使い方の問題としてお尋ねしたいというのが2点目であります。

それから、3点目ですけれども、図面の真ん中の少し上あたりに、なかよし1、なかよし2という表記がありまして、これは点々で囲まれておりますので、現行は、なかよし1、なかよし2という教室名で使われているというところだと思います。これは聞くところによると、小学校1年生、2年生のランチルームとして活用しているとお聞きをしておりますが、この部屋が併設後の案の中では見当たらないんですね。ということは、この今使っているランチルームという機能は、併設に伴ってもうなくしてしまうということになるのか、もしそうであるならば、それはそれで構わないのかというか、そのあたりはいかがか、一定の目的を持ってこの部屋については設置をされているところだと思いますので、それをなくしてしまっても構わないのか、そのあたりについてもお聞きをしたいと思います。

それから、ひまわりの1、2の教室についてお尋ねをします。この2つの教室は、現在は1階で運用していて、移設後は2階でという予定のようでありますけれども、この2つは支援学級でありまして、特別な配慮が必要な子どもたちが通っているところというところですが、現在はこの部屋2つともにクーラーが設置されていたと思います。移設後も2つの部屋にクーラーが設置されるのか、念のため確認をさせていただきたいと思います。

それから、図面の一番真ん中あたりで分割室と書いてある部屋があるんですが、現行の点々で囲まれている3年1組、3年ホール、その下に分割室ってあるんですが、この分割室は何年生の分割室として現在利用しているのか、お聞きをしたいと思います。

それから、これで最後になりますけれども、右のほうに物置が設置をされる予定とお見受けをいたします。これブルーで色づけをされておりますけれども、ブルーの色づけについては、移設部分というのが基本のようではありますが、この物置については移設ということではないと思うんですね。今は物置という機能を果たしている部屋は、私がよう見つけないのかわかりませんが、お見受けできませんで、移動ではなくて、新たに設置をする

ものということかなと見ているんです。それで、必要性に応じて必要なものは設置をするというのは当然のことでありますけれども、今までなかったものを設置するということでありましたら、その必要性や経緯、また何を保管するものとして設置をするのか、そういった事柄についてもお尋ねをしたいと思います。よろしくお願いします。

坂原副委員長 では、答弁をお願いします。どうぞ。

廣田（節） 教育委員会事務局教育次長 分割教室とホールということなんですけれども、これは併設の協議を始めた中で、分割教室とホールというのはどのように使われているのかということで調査をいたしております。学校がどのように使っているかということなんですけれども、実際には分割教室とホールという名称は異なりますが、使用内容にそれほど差異はありませんで、少人数授業、図工科、生活科、グループ活動などで使用しているということで答えをいただいております。

併設前の調査なんですけれども、それぞれの使用頻度なんですけど、1年生、ホールの使用頻度は20%で、分割室は使っておりませんでした。2年生は分割室のみ20%程度の使用、3年生、4年生は、ホールを20%程度、分割室を40%程度利用している。5年生はホールのみ60%程度使用しています。6年生はホールが20%で、分割室を40%程度使用しているという回答をいただきました。

併設後なんですけれども、併設後の教室については、学校の希望でこのような配置をさせていただいております。1、2年生については、1、2年のホールを設置しているのみですので、それぞれが各1.5教室の利用予定になります。3年生、4年生は3、4年の分割室でそれぞれにホールを持っておりますので、各3年生、4年生は2.5教室の利用になります。5年生、6年生は、併設後は5、6年分割室、5、6年ホールとなりますので、各学年が2教室の利用予定ということになっております。

それから、なかよしの1、2についてご質問いただいていたと思うんですけれども、なかよしは給食で利用しておりましたが、現在の1年生が7名ですので、特別に給食ルームとして必要なかどうかというのは、学校サイドでないとわからないんですけれども、2年生が現況の生徒数が19名ということで、なくしていいのかという点については、学校として今後どのような運営をしていくまでは、現在確認が取れていない状況で、1、2年のホールを活用するのか、新たに今後また教室の配置を変えて、これはあくまでも併設案ですので、不便であれば、また他の教室、他の学年がたくさん教室を使用もしておりますので、考えていっていただきたいと思っております。

それから、物置の件ですけれども、設置場所については、まだ保育所との運動場をどのように利用していくかというので協議中ですので、物置の設置場所についてはまだ確定しておりません。これは4ページの図面を見ていただきたいんですけども、保育所側の園庭となる現在の職員室の裏庭のところに運動会の備品とかを収納しておりますプレハブがございます。このプレハブは撤去になりますので、こちらに入っている用品と、それから現在、併設後、職員室、2、3歳のトイレになるところが準備室となっているんですけども、こちらに生活発表会ですとか、さまざまなイベントに使用する備品を収納しております、それぞれの備品の行く場所がなくなりますので、新たに物置を設置するということになります。

坂原副委員長 あと、ひまわり1、2のクーラー。

廣田（節）教育委員会事務局教育次長 申しわけございません。ひまわりの1、2のクーラーのことなんですけれども、現在1階にございますひまわり1、2に空調を設置しておりますのは、1階のひまわり1、2のこの棟なんですけれども、こちらに全校児童・生徒の靴箱を設置しております、ここで運動場を出るときに履きかえたりいたしております。それで、支援学級の子どもたちが集中して授業ができないという小学校から要望がありましたので、ひまわり1、2にクーラーを設置したという状況がございます。今度、併設後は2階に移るんですけども、支援学級、支援の必要な子どもさんのことを考慮いたしまして、1室に、ひまわり2のほうにクーラーを設置させていただく予定にしております。

坂原副委員長 それから、分割室はこれ何年生のかと質問ありましたね。

廣田（節）教育委員会事務局教育次長 済みません。現状の分割室ですが、分割室としか書いてないところですが、3年生が利用しております。

坂原副委員長 以上でいいですか。

中原委員長。

中原委員長 なかよし1、2の給食で利用しているランチルームのことについては、また現場とよく相談をしていただいて、小学1、2年生、給食を家庭的な雰囲気かどうか、楽しく給食をとると学校に早くなじむとか、いろいろな目的で恐らく運用されているのだろかなというように想像しますので、また小学校の現場のほうとよく相談をしていただいて、運用については工夫をしていただければいいかなと思います。

それから、支援学級に設置されていたクーラーのことですけれども、経緯も改めてお示しいただいたところではありますが、設置された経緯については、私も以前お聞きしたとこ



ろであります。それで、ひまわり2の教室にのみ移設するということでありまして、それは設置のいきさつからいきますとそういうことになるのかなと思うのですが、ただ結果を見たときに、教育環境としては後退するということになると思います、私はね、あったものが移設後なくなるということになりますので。いろいろないきさつもありますから、私はこのひまわり、その支援学級の子どもたち以外にも、全ての子どもたちに適切な環境をということを思っていますので、またそのことも含めて、空調については全体的な整備をぜひ検討していただきたいと要望しておきたいと思います。ご協力ありがとうございます。

坂原副委員長 では、委員長に返します。

中原委員長 では、委員の皆さん、質問のほうはもうよろしいでしょうか。

(「なし」の声あり)

中原委員長 では、これで質疑を終わります。

続いて、討論を行います。

討論ございませんか。

田島委員。

田島委員 賛成です。

中原委員長 賛成討論。

反対討論の方ございませんか。

田島委員 反対あったら、反対、先してくださいよ。

中原委員長 よろしいですか。では、田島委員、どうぞ。

田島委員 それでは、一応この補正予算について賛成の意を表したいと思います。

過日も委員会でいろいろ公共事業で結局受益者が少ないので、その事業が成り立たないと、下水にしても、水道にしても、いろんな成り立たない、これはやはり社会的に人口減少が要因と思うんですね。今回もこの保育所統合等についても、やはり多奈川小学校の例を見ても、やはり保育所の結局老朽化、そして深日地区の保育所の老朽化、これを建て直せばどれだけの工事費が要るかと、それを考えたら、やはり統合化することによって、あるものを利用して、そしてそういうものを活用すると、これはやはり行革の精神の大事な部分であると思うんですね。

ということで、今回も字の小学校のために、字の財産区が一般会計に繰り入れていただいたと、これ本当に正しい予算の繰入金と感じています。

また、中身等についても、いろんな委員のご意見があったんですけども、しかしなが

ら、深日地区はこういう目的で、こういう子どもを育てたいということで、各字にはやはり文化があつて、祭りがあつて、そういうことで、何もかも一本化というのは、これはまた性急なもので、いかがなものかと思ひますので、やはり当面は各字の文化、お祭り、いろんな教育をまとめていながら、この将来展望を見据えて、最終的には一本化するのが一番すばらしいんですけども、急にそういう一本化いうのも、これはいかがなものかと、私は個人的に思っているわけですね。

ということで、今後もそういう大きいものを縮小すると、やはり服でも身上げをしていかないといけない時代になっていますので、賢く身上げをして、スタイルよく身上げをしていただきたいと、かように思つてますので、今回の当初予算の執行については、本当に各字の教育を考えた上での施設のこの統合と思うんです。

そして、もう一点つけ加えたら、いろんなこれから将来的に事業が縮小されて、そしていろんな事務量が結局職員に負担がかかる恐れがあるわけですね。なぜかいうと、いろんな兼務でやっていかないといけない。やはり人間には労働能力というのは限りがあるので、事務能力も限りがあるので、やはり頭数そろえたらいいわと、そういう考えでなしに、やはり教育は教育で大事にしてもらわな、そしてその教育を支えるその職員さん、職員もやはり人間ですので、機械ではございませんので、健康面の配慮をして、人事配置もやはり現場との調整、一応やっぱり現場の声を聞いて、そしてそういう人事をしていただかないと、何でもかんでも一緒にしたらいいのやというそういう考え方はまずいと思ひますので、今回の当初予算の執行については、私は字の議員として当然な執行をしていただいた。あとは現場で各職員がトラブルを起こさないように、ひとつまとめていただいて、これから子どもを育てていただきたいと、かように思ひますので、賛同の意として賛成討論として終わります。

中原委員長 ほかに委員の皆さんの中で討論ございませんか。

竹原委員 賛成です。

中原委員長 竹原委員、どうぞ。

竹原委員 私も賛成の立場で討論に加わらせてもらいます。

全体の流れの中で小学校の話が多かったのかなと、それに聞いておりますと、小学生をいかに育てていくかというところの議論がとてもいいように進んだなど、予算の執行に当たりまして、十分に配慮されていると思ひましたので、賛成とさせていただきます。

中原委員長 ほかの委員の皆さん、討論ございませんか。

(「なし」の声あり)

中原委員長 これで討論を終わります。

続いて、採決を行います。

議案第54号「平成27年度岬町一般会計（第3次）の件」のうち、本委員会に付託された案件について、原案のとおり可決することに賛成の方の挙手を求めます。

(挙手全員)

中原委員長 満場一致であります。

よって、議案第54号のうち、本委員会に付託された案件は可決されました。

引き続きまして、議案第57号「平成27年度岬町深日財産区特別会計補正予算（第1次）の件」について、議題とします。

本件について、担当課から説明を求めます。

今坂総務部総務課長兼法制文書係長 委員会資料の4ページをごらんください。

平成27年度岬町深日財産区特別会計補正予算（第1次）の件につきましてご説明申し上げます。

まず、歳入です。

4繰入金、1基金繰入金、1深日地区財産区基金繰入金としまして、2,486万7,000円の増額補正を行うものです。

内容につきましては、繰出金に充当するための財源調整です。

次に、歳出です。

2諸支出金、2繰出金、1繰出金としまして、2,486万7,000円の増額補正を行うものです。

内容につきましては、深日小学校保育所併設事業費に係る経費として、2,486万7,000円を一般会計に繰り出しするものです。

以上、当委員会付託分、計としまして2,486万7,000円です。

中原委員長 ただいまの説明に対しまして、質疑ございませんか。

(「なし」の声あり)

中原委員長 よろしいですか。

では、これで質疑を終わります。

続いて、討論を行います。

討論ございませんか。

(「なし」の声あり)

中原委員長 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

続いて、採決を行います。

議案第57号「平成27年度岬町深日財産区特別会計補正予算（第1次）の件」について、原案のとおり可決することに賛成の方の挙手を求めます。

(挙手全員)

中原委員長 満場一致であります。

よって、議案第57号は、本委員会において可決されました。

議案第58号「平成27年度岬町多奈川財産区特別会計補正予算（第1次）の件」について議題といたします。

本件について、担当課から説明を求めます。

今坂総務部総務課長兼法制文書係長 委員会資料の5ページをごらんください。

平成27年度岬町多奈川財産区特別会計補正予算（第1次）の件につきましてご説明申し上げます。

まず、歳入です。

3繰入金、1基金繰入金、1多奈川地区財産区基金繰入金としまして、467万7,000円の増額補正を行うものです。

内容につきましては、繰出金に充当するための財源調整です。

次に、歳出です。

2諸支出金、2繰出金、1繰出金としまして、467万7,000円増額補正を行うものです。

内容につきましては、中集会所改修工事実施設計業務の委託や、朝日会館の公共下水道接続工事に係る経費を一般会計に繰り出しするものです。

以上、当委員会付託分、計としまして467万7,000円です。

中原委員長 ただいまの説明に対しまして質疑ございませんか。

(「なし」の声あり)

中原委員長 質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

続いて、討論を行います。

討論ございませんか。

(「なし」の声あり)

中原委員長 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

続いて、採決を行います。

議案第58号「平成27年度岬町多奈川財産区特別会計補正予算(第1次)の件」について、原案のとおり可決することに賛成の方の挙手を求めます。

(挙手全員)

中原委員長 満場一致であります。

よって、議案第58号は、本委員会において可決されました。

議案第60号「岬町個人情報保護条例の一部を改正する件」について、議題といたします。

本件については、本会議で説明を受けておりますが、補足説明がありますので、担当課より説明願います。お願いします。

寺田まちづくり戦略室地方創生企画政策担当課長 それでは、委員会資料の16ページをごらんください。

岬町個人情報保護条例の一部を改正する条例案の概要について説明させていただきます。

初めに、1、趣旨ですが、平成25年5月に国において行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用に関する法律、いわゆる番号法が制定され、全ての国民に個人番号、マイナンバー12桁が付番されることとなりました。番号法では、個人番号をその内容に含む特定個人情報及び情報提供等記録について、より厳格な保護措置を講ずることとしており、番号法で直接保護措置を規定するほか、地方公共団体に対し番号法の趣旨を踏まえ、必要な措置を講ずることを定めております。

16ページの下を図をごらんください。

条例上の個人情報の取り扱いをお示ししております。個人番号、マイナンバーは個人情報に該当し、岬町個人情報保護条例の規定が適用されますが、現行の条例には個人情報に含まれる特定個人情報等の規定がないため、番号法、その他関係法令の規定の趣旨、内容等を踏まえて、本条例に必要な規定に整備を行うものです。

17ページの中ほどの個人情報保護の法体系図をごらんください。

個人情報保護に関する法体系につきましては、図の上段部分の個人情報保護法において、

官民全体の個人情報に関する基本的な項目が定められております。そして、図の中段部分、地方公共団体や国の機関、民間事業者などの個人情報の具体的な取り扱いにつきましては、それぞれ条例や法律で定められております。

番号法による特定個人情報の保護措置につきましては、国の機関や独立行政法人、民間事業者においては、個人情報保護法の規定を読みかえて適用することとしておりますが、地方公共団体におきましては、番号法第31条により、番号法の趣旨を踏まえて条例を整備することとされていることから、本町におきましても、特定個人情報等の適正な取り扱いを確保するため、本条例を改正するものであります。

それでは、2、条例案の概要を説明させていただきます。

初めに、（1）定義、第2条関係ですが、個人情報をより厳格にするため、新たに特定個人情報、情報提供等記録、特定個人情報ファイルについて、条例で新たに定義します。

次に、（2）特定個人情報利用及び提供の制限については、個人情報の利用及び提供の制限に関し、従来の個人情報と特定個人情報の取り扱いを別に規定するもので、目的外利用及び提供の制限の規定を設けるものです。

18ページをごらんください。

また、特定個人情報の目的外利用及び提供については、通常の個人情報よりもさらに厳格に制限し、また情報提供記録については、目的外利用を一切禁止していることから、条例においても同様に規定するものです。

次に、（3）任意代理人による開示請求等の規定の追加ですが、これは特定個人情報の開示請求について、任意代理人の請求が可能になることから、条例においても同様に規定するものです。

次に、（4）情報提供等記録の訂正時の通知ですが、情報提供等記録を訂正した場合に必要があると認めるときは、情報の照会者、提供者及び総務大臣に通知することから、条例においても同様に規定します。

次に、（5）の特定個人情報及び情報提供等記録の利用停止請求に関する規定ですが、特定個人情報については、番号法に違反する行為が行われた場合に、利用停止、消去または提供の停止の請求を認めているため、条例で同様に規定します。

また、情報提供記録は、システム上自動保存されるもので、利用制限に違反することが想定されていないため、利用停止等、請求を認めない取り扱いをしていることから、条例においても同様の取り扱いとします。

次に、（６）他の制度との調整ですが、開示請求については、現行の規定では、他の法令等により開示の手続が定められている場合は、開示請求があっても開示を行わない調整規定を設けていますが、改正では、特定個人情報等の開示請求と他の制度との併用ができるように規定します。

１９ページをごらんください。

最後に、（７）施行期日、附則ですが、番号法では項目ごとに施行日が決められており、条例の項目についても番号法の施行に合わせて施行します。特定個人情報の保護のための措置については、本年１０月５日から、特定個人情報の利用に関する規定は、平成２８年１月１日から、情報提供等記録に関する部分の規定は、番号法附則第１条第５号に定める日から、それぞれ施行することとなります。

中原委員長 ただいまの説明に対しまして質疑ございませんか。

田島委員、どうぞ。

田島委員 単純な質問をさせていただきます。これは国においての特定の個人を識別するための特別法ですね、これはもう制定されましたわけですね。しかしながら、当町ではそれに準じて条例を制定すると、そういう流れですけども、上級の法に逆ろうてそんな条例制定できないということですね。これを国ではこういうことを制定されましたよと、そしてこういう行為についてはだめですよ、そういう流れの今日の説明と思うんです。幾ら国のやり方がおかしいと言って、条例で作ったところで、何ら条例も役をしないと、そういうことになるんですけども、結局、国のその特別法に従わざるを得んということですね、結果的に。それどうですか、私不勉強でわかりませんので、もう細かいことを議論しても、国の特別法が設置されたのだから、それに従いなさいということですから、それをこの委員会でああだこうだ、すったもんだ言ったところでいた仕方ない話ですわな。それを説明してほしいんですけどね。従う義務ありますよ、自治体は。

中原委員長 答弁をお願いします。

西まちづくり戦略室地方創生企画政策監 田島委員おっしゃられるように、本来個人情報の取り扱いというのは、国のほうで個人情報保護法というのが定められております。今回、番号法は特別法として制定されますので、本来は個人情報保護法の特別法ですので特別法のほうが優先される形になります。ところが、番号法は個人情報の保護法を読みかえるという規定があるんですけども、この個人情報保護法は国の機関や民間に対して個人情報の保護を定める法律になっておりまして、自治体については、独自に条例をつくって対応するとい

う形になってまいります。

ですので、番号法でそもそも定めていただければ、改めて条例を改正する必要がないんですけども、特定個人情報の読みかえという方法でいっておりますので、その分を反映するために、条例に反映させていく必要があるということになってまいりますので、今回の条例の改正というのは、番号法なりその個人情報の保護法の読みかえを踏まえた上で定めておりますので、それを超えとか、そういうものではないということになってまいります。

中原委員長 田島委員、どうぞ。

田島委員 ということで、やはり上位に対しては準則というか、それをやはりわきまえた条例制定をしないと、極端に言えば、大阪府条例に岬町条例は逆らわれないということですね。それがもう基本ですので、それを踏まえて、私はもう少し勉強したいなと、まず答えから言ってしまうて済みませんですけども、私はこれで勉強したいなと思います。

中原委員長 ほかの委員の皆さん、竹原委員、どうぞ。

竹原委員 私もまだまだ勉強不足なところはあるんですけども、この条例を改正することによって、岬町として現場の個人情報を取り扱う者に対してどのような変化があるのかとか、講習を受けさすのか、取り扱い規定にのっとって何かの配置を変えるのか、そういうような動きはあるのでしょうか。

中原委員長 答弁をお願いします。

西まちづくり戦略室地方創生企画政策監 この条例が制定されることによって、町の中でのそういう特別な扱いというのは変わりません。あくまでも、現在、岬町の中では特定個人情報という位置づけが個人情報保護条例の中ではされておきませんので、それを位置づけることによって、国の番号法の的確な運営を地方自治体においても実施するということになってまいりますので、これに伴って何か岬町として違うということではなくて、もう国と同じ扱いに、厳格にこの番号、特定個人情報を取り扱うことになるということになります。

中原委員長 竹原委員、どうぞ。

竹原委員 今の話を聞きまして、特に現在も厳格に取り扱っているということを確認するということとだけかなと思いますので、その点理解はいたしました。

中原委員長 ほかに、委員の皆さんいかがですか。

(「なし」の声あり)

中原委員長 副委員長、済みません、私質問させてください。



坂原副委員長 では、委員長が質問しますので、進行が変わります。

中原委員長。

中原委員長 本件につきましては、国政上で定められたことでありますので、町単独での努力の余地というのは極めて少ないところでありますけれども、実務上のことで住民に不利益が生じないようにということは思っておりますから、何点か確認をさせていただきたいと思えます。

この制度の運用について、実際の実務は委託をして行ったりということがあると思うんですけれども、改めてお聞きをしますが、委託をする場合はどのように情報の流出や漏えい、また悪用から個人情報を守るのかということについて、1点お尋ねをしたいと思います。

それから、自治体それぞれに義務づけられている情報保全措置という問題がありますけれども、それについては全て完了をしているのかどうか、お尋ねをしたいと思います。

それからもう一点、自治体によってこの制度を独自に利用することが可能なんですね。いわゆる上乘せということになるんですけれども、そういったことを岬町では検討しているのかどうか。私はこの制度の利用は最低限にとどめるべきと考えるものでありますけれども、自治体によっては、自治体独自にこの制度を利用して情報を把握するというようなことも行われておりますので、岬町においてはそのようなことはお考えかどうか。この3点についてお尋ねをしたいと思います。

坂原副委員長 答弁をお願いします。

西まちづくり戦略室地方創生企画政策監 今、委員長がご質問されたことは、マイナンバーについてのご質問かと思えます。今回ここで挙げさせていただいているのは、個人情報の保護の観点からの条例でございますので、ちょっといただいた趣旨と、この法の中のこの条例の趣旨とちょっとずれてくるかなと思うんですけれども、いかがでしょうか。

坂原副委員長 中原委員長。

中原委員長 では、わかる範囲で結構ですので、お答えをいただければと思います。

坂原副委員長 答弁をお願いします。

西まちづくり戦略室地方創生企画政策監 まず1点目の運用についてということは、これは恐らくマイナンバーの運用という意味での運用ということかと思うんですけれども、これの委託につきましては、当然、今回の個人情報保護条例、それから国のほうで定められております番号法、そして個人情報保護法の規定の適用を受けておりますので、それによつて的確な

運営がされるという形になるかと思います。

それから、2点目の自治体の保全措置についての完了ということでございますが、これちょっと趣旨が申しわけございません、把握できないんですけども、マイナンバーの運用については、当然番号法なりの規定、それから国の運用趣旨に基づいて、我々のほうとしては、現在準備を進めさせていただいているところでございます。

それと、制度の独自利用と、これもマイナンバーの独自利用のことをおっしゃられているのかと思うんですけども、これにつきましては、また今後条例を制定する中で独自利用の範疇を定める形になりますので、これはまた別途条例を制定させていただく予定をいたしております。

坂原副委員長 中原委員長。

中原委員長 保井さんが来られていますから、保井さん、今、私がお聞きした範囲の中のことでご承知のことがあれば、お答えをいただければありがたいのと。

それから、3つ目にお答えいただいた条例制定を改めてということが示されましたけれども、具体的にこういった分野に活用しようと思っているとか、そんなことがもしあるようであればお聞きさせていただいていいですか。可能であれば、で結構です。

坂原副委員長 答弁をお願いします。

田島委員 ちょっと委員長、所管が違うんでしょう、この件について。所管課。答弁するなら、どうぞ進めて。

坂原副委員長 はい、どうぞ。

保井まちづくり戦略室長兼町長公室長 個人情報につきましては、職員に関しては十分に徹底していきたいという形でございます。

マイナンバー制度に関しましては、西のほうから説明したとおりだと考えております。

坂原副委員長 2点目の答弁をお願いします。どうぞ。

西まちづくり戦略室地方創生企画政策監 マイナンバー、個人番号の利用につきましては、社会保障、税、災害対策の分野で独自利用できるということでございますので、この分野で独自利用するものがあれば、条例で制定するという形になってまいります。これにつきましては、現在、各課のほうに今照会をかけておりますので、12月議会をめぐりに上程させていただくという予定をいたしております。独自利用があればという範疇ですけども、考えておるところでございます。

中原委員長 はい、結構です。

坂原副委員長 いいですか。では、委員長に戻します。

中原委員長 ほかの委員の皆さん、質疑ございましたら、どうぞ。

(「なし」の声あり)

中原委員長 では、これで質疑を終わります。

続いて、討論を行います。

討論ございませんか。

(「なし」の声あり)

中原委員長 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

続いて、採決を行います。

議案第60号「岬町個人情報保護条例の一部を改正する件」について、原案のとおり可決することに賛成の方の挙手を求めます。

(挙手全員)

中原委員長 満場一致であります。

よって、議案第60号は、本委員会において可決されました。

議案第68号「平成26年度岬町一般会計決算認定の件」のうち、本委員会に付託された案件について、議題といたします。

本件については、本会議で説明を行っておりますので、理事者の説明を省略したいと思います。

また、歳入、歳出をそれぞれ分けて審議したいと思います。よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

中原委員長 それでは、歳入から審査に入ります。

なお、適切な時間に休憩を差し挟むことになると思いますので、そちらへのご協力もお願いいたします。

委員会資料の20ページから25ページをごらんください。

歳入について質疑ございませんでしょうか。

委員の皆さん、歳入についてはよろしいですか。

竹原委員、どうぞ。

竹原委員 歳入のところで、20ページ中ほどに町たばこ税とありますけども、結構な税収入になっておりますが、これは増加傾向であるのか、減少傾向であるのか、これからの見通しと

いうのをわかりにくいでしょうけども、教えてほしいと思うのと。

私からはもう一点ですが、22ページの下から2番目ですね、売払収入というんですか、財産売払収入ということで、車両を売って金額が出てきておりますが、これは何台分でしょうか。売れたのかなと思うんですけども、わかれば教えていただきたいと思います。以上、2点お願いします。

中原委員長 2点について答弁をお願いします。

澤税務課長兼行革推進課長 竹原委員のご質問にお答えさせていただきます。

たばこ税の推移ですけども、基本的には、本数の推移と調定額の推移が若干異なっておりまして、調定額につきましては、平成25年度から平成26年度につきまして減少傾向ということになっております。ただ、平成25年度から平成26年度は減少傾向なんですけども、平成24年度から平成25年度につきましては、一旦増加している状況にございます。これは平成25年4月よりたばこ税の新税率が適用されたことに伴いまして、販売本数が減少しているのにもかかわらず、調定額が増加しているということになっておりまして、販売本数はやはり減少傾向が見られるということでございます。

中原委員長 引き続いてお願いします。

今坂総務部総務課長兼法制文書係長 車両売払収入でございます。売り払いにつきましては、3台の実績でございまして、軽の箱バンが2台、ステーションワゴンが1台、合計3台でございます。

中原委員長 竹原委員、よろしいですか。

竹原委員 はい、とりあえずオーケーです。

中原委員長 では、ほかの委員の皆さん、歳入について質問ありましたらお願いします。

田島委員、どうぞ。

田島委員 確認だけさせてください。

財産収入、同じくこの部分で不動産売払収入の部分で、これ1,552万円収入、これはどういう不動産を売却したのですかな。ちょっと内訳、中身等確認したいのみですので、ひとつ説明願います。

中原委員長 お願いします。

今坂総務部総務課長兼法制文書係長 町有地売払収入、その内訳ですが、一般競争入によります売り払いが3件、法定外公共物に係る売り払いが4件、あと町長が適当と認める売り払いとしまして随意契約したものが1件、以上でございます。

中原委員長 田島委員、どうぞ。

田島委員 申しわけないですけど、その物件名とかそういう説明、できたら説明願いたいんですけどね。そして、随契した部分、理由もちょっと教えてください、最後に。

中原委員長 詳細についての説明をお願いします。

今坂総務部総務課長兼法制文書係長 一般競争入札に係る３件につきまして、多奈川谷川の１８４７番地の３９、それから多奈川谷川の２４０２番地、あと、多奈川谷川の１６２４番地の８、以上３件の宅地となっております。位置につきましては、与田病院の横の町有地１件、平野地区の町有地１件、小田平地区の町有地１件の計３件となります。

それから、随意契約によります淡輪の３４１０の８、これは淡輪１７区の中にある町有地でございまして、以前、浄化槽に使用していた土地でございまして、浄化槽が中に存在して残っているという特殊な土地で、借受人より売却の申し出があり、不動産鑑定を入れてまして売却した件でございます。

あと残り、法定外公共物、里道敷等が淡輪の地区で所番地を申しますと、淡輪の１４６７番地の８、２３６４番地、１３４０番地の１５、あと１４９３番地と淡輪の９２４番地、それぞれ里道敷、水路敷という法定外公共物の処分になっております。

中原委員長 田島委員、どうぞ。

田島委員 私、今回なぜ聞いたか言いましたら、やはり以前から私は町有財産、町有地等々の管理をしっかりとくださいと、そういう意味で言ってるわけで、やはり、何て言うんですか、もう町にとっては必要のない、これから将来的に利用価値のないそういう町有財産地があると思うんです。この部分をいつまでも抱えて維持管理して、そんなことするより、将来的にもうはっきり利用価値がなかったら、やはり住民が希望する、隣接の方が欲しいと言ったら売り払って、そういう方法をして財産管理をしていかないとあきませんので、何も売ったからと言って今回質問したんじゃないです。私の質問は、今後町有地、町の財産のある、使い道がないと言ったら失礼ですけども、利用価値がもう将来的にないだろうというのであれば、それを極力売却して、そして管理を少なくして、そういうスリムな町有財産を持つようにしていただきたいのと、そのお願いであって、また将来的ないろんな各所管の施設を把握していますので、その部分について求めていきたいと思うんですよ。

今回そういうことで、ひとつお荷物になっている町有財産地はどんどん売却していただきたいのと、担当課のほうもそういうぐらゐの努力をしてほしいのと、そういう考えを持っていますので、私は売却したら反対派じゃないので、一応スリム化してくださいと、

必要なものは置いといてくださいよ、必要でないものはもう売却して、ここ欲しいんだというような住民があったら、やはりそういう具合に住民が利用価値があれば、そういう具合に払い下げると、そういうことをしていかないと、いつまでも昔のものを持っていたら、もう粗大ごみと一緒に、いつ捨てたらええんやというのが、結局粗大ごみが満杯になって難儀するわけです。ということで、ひとつこれはもう要望、委員長、しておきます、財産管理の部分について。答弁してよ、部長。

中原委員長 はい、答弁をお願いします。

古谷総務部長 不要不急の普通財産につきましては、これは売却なりして財源も得ていくということが、行財政改革の始まったときからの基本的な考え方であったかなと記憶しております。昨年度も一般競争入札に付し、またお申し出のあった土地につきましては、鑑定も取った上でございますが、売却に努めて、26年度、その前は一般競争入札をしてもなかなか売れなかったというところが実際のところあったんですけども、去年は結構皆さん応札していただいたなというところでございます。今年度もまた近々2件競争入札に付するというところで準備を進めておるところでございます。

田島委員 ありがとう、結構です。

中原委員長 よろしいですか。

ほかに委員の皆さん、歳入についての質疑はよろしいでしょうか。

(「なし」の声あり)

中原委員長 それでは、これで一般会計歳入についての質疑を終わります。

ここでとめましょうか。どちらでも。休憩を入れましょうか。

それでは、この場で一旦休憩をさせていただきまして、歳出の審議については、午後に続行ということにさせていただきたいと思います。

なお、午後の開始時刻なんですけれども、理事者のほうの事情がございまして1時30分から開始ということで、委員の皆さんにはご協力をいただきたいと思います。

では、暫時休憩といたします。

(午前11時55分 休憩)

(午後 1時30分 再開)

中原委員長 それでは、午前中に引き続きまして質疑を行いたいと思います。

それでは、歳出に入ります。

なお、参考資料として配付をしております「本委員会所管内訳表」をあわせてごらんく

ださい。

まず、議会費について、決算書の４４ページ、４５ページをごらんください。

質疑ございませんか。

よろしいですか。

（「なし」の声あり）

中原委員長 質疑なしと認めます。

これで、議会費についての質疑を終わります。

続いて、総務費に入ります。

決算書の４５ページから６５ページをごらんください。

ただし、５２ページの目６、交通安全対策事業費と、５３ページから５４ページの目７、企画費の観光交流課分、５９ページから６１ページの項３、戸籍住民基本台帳費は他の所管ですので、除きます。

それでは、総務費の範囲で質疑ございませんか。

田島委員、どうぞ。

田島委員 まず１点だけ、５１ページの備品購入費の部分で公用車購入、これ５７４万２，０００円、かなり金額的にいい車だなと思うんだけど、車種と、そしてその購入して配車場所の所属のほうの車両の部分、２点、どういう車種か、そしてどこへ配属される車種か、２点説明をお願いします。

中原委員長 公用車についての質問、答弁をお願いします。

答弁どうぞ。

今坂総務部総務課長兼法制文書係長 この備品購入費の内訳ですが、公用車、ノアのハイブリッド１台、これが３２３万７，８４０円、あと軽四の箱バンが３台、２５０万４，５２０円ということになっております。ノア及び軽四３台は、全て総務課の所管になっております。

中原委員長 ３台全て。

田島委員、どうぞ。

田島委員 ありがとうございます。一応、公用車購入で一括で五百何ぼいうから、どんな車種かなということを説明を求めたものであり、何も意図はございません。

中原委員長 説明まだあるようでしたが。

田島委員 説明あったら、説明をお願いします。

笠間教育長 今、公用車の配置について、総務課と言っておりましたけども、これは全課で、特に

教育委員会のほうでは、今まで町長の公用車を貸していただくことが多かったわけです、教育委員さんが移動あるということで。ただ、今回ハイブリッドの公用車、ノアを購入いただきましたので、教育委員会でも使わせていただいていますし、各課で共通で使わせていただいているというのが現状でございます。

中原委員長 田島委員、どうぞ。

田島委員 ありがとうございます。一応公用車について、以前私、公用車の車種、いろんな維持管理について普通車やったらちょっと維持管理が大変やと、もう軽にしたらどうかという昔、そういう経緯を質問したことがありまして、やはり現場へ行くにも2人も3人も行く必要ないので、やはり1人2人で十分やということで軽の箱バンをかなり希望して提案したんですけれども、そうしたらこれだけ軽3台購入されて、そして内訳も聞きました。

そして、ノアの分は当然普通車でなければならんような、用に供する車やから、これは認めます。ということで今、公用車で軽4輪で一応現場を見たり、いろんな事務連絡なり、そういう使っている車両は何台今所有されておられるのか、まず普通車は何台使っているかという、その内訳をまず教えていただきたいなと思います。

中原委員長 答弁をお願いします。

今坂総務部総務課長兼法制文書係長 今ちょっと手持ち資料がございませんので、後ほど提出させていただきます。

田島委員 後ほどで結構です。ということで、結構我が町にもそういう公用車を運行させておれば、当然この運行に関するやはり判然を確保するための運行管理者というのが置かれていると思います。有資格者のね。置かれているので、その毎日毎日の車両を運行するに当たって、いろんな始業点検なりそういう同行補助を義務づけられている、そういう運転者としての義務を全うされているのか。

例えば、そういう運行記録を記載されているのか。そして、やはりいろんな車両運転に最低必要ないろんな燃料関係とかいろんな部分を把握された上で運行されなければいけないわけですね。

そして、やはり運転者が、行き先、走行距離等々書いて、そういう運行管理をされているのか。それは、運行管理者一人でチェックできるものではないので、各所管でそういう責任者がいて記載されているのか。

また、各課に車両を貸借する場合は、やはり貸借票なりに記載して、当日の運行を確保せんと、後日いろんなことが発生した場合、それをやはり証明するものがないので、そう



いう運行管理者として十分全うされているのか。この点についてもお尋ねしたいなと思います。

中原委員長 答弁をお願いします。

今坂総務部総務課長兼法制文書係長 各公用車1台ずつに運行日誌を備えています。それには、運転者、行き先、要件、何時から何時まで使用したか。何キロ走ったか、ガソリンを入れたかどうかということを記載することにしております。

あと、運行管理者は、総務部に安全運転管理者1名、副安全運転管理者2名ということで、法的に義務づけられていますので配置しております。

日常点検、始業点検も運転者の義務になっておりますので、運行日誌同様1台ずつに備えて管理をしております。

中原委員長 田島委員どうぞ。

田島委員 ありがとうございます。やはりあくまで公用車ですので、公道を走ったら岬町の看板を背負って走っているということですので、やはり整備点検せんと、速まって損傷ぶつけたところとか、そのままの状態で行けば、やはり岬町の資質を問われますので、いろんな事故ったとか軽い損傷とかの部分についても早急に修理して、そして、きれいな安全な車であるということを岬町のマークが入っていますので、余り見苦しい公用車を走らせないように、ひとつ運行管理者のほうで逐次点検していただきたいと思います。書類点検じゃなしに、現物点検も時たま抜き打ちでしてくださいね。でないと、私どもよく見ますので、住民はよく役場の車というのは見えていますよ。ただ言わないだけのことで、ひとつその点、運行管理者は十分な責務を全うしていただきたいと、かように思います。

最後委員長、一点だけよろしいか。

中原委員長 どうぞ。

田島委員 そうしたら56ページの部分で、地方創生総合戦略事業費、これはもう意味はわかります。意味はわかりますけれども、そういう金額的なものはわかるんですけども、備考で説明がまるっきらないので、どういうものに事業費が使われたのかということを説明いただければありがたいんですけども、どういう節の部分はわかるんですけども、備考の部分の部分がまるっきらないので、そして不用額等についてもいろんな部分が記載ないので、できれば簡潔で結構です。大体私が理解できればいいと思いますので、説明ができれば説明を求めます。

中原委員長 答弁をお願いします。

寺田まちづくり戦略室地方創生企画政策担当課長 地方創生総合戦略事業費についてご回答します。

まず、ここに載っております9の地方創生総合戦略事業、10、住民生活等緊急支援事業費につきましては、全額繰り越ししまして、今年度事業を実施するものであります。

主にここには、事業費として載っておりませんが、節別になっておりまして、それぞれ地方創生総合戦略事業費につきましては、主に結婚子育て支援事業、地域の魅力を活用した移住促進事業、地域資源を活用した観光振興事業、持続可能な地域づくり事業というふうにわかれておりまして、例えば、婚活応援事業とか出産支援事業、子育て支援事業、こういうものに充てはまる報償費とか委託料、負担金、扶助費というものが例として挙げられます。

今年度、事業を進めるに上で、来年、今年度の決算として計上されることとなります。今は事業費については、どれだけ進むかは、現状では金額等を含め、決算見込については今のところわかりません。

中原委員長 田島委員どうぞ。

田島委員 ただいまの説明で理解いたしました。どういう科目的に使うということは、この決算、繰り越しの部分について今度の事業に充てるということは理解いたしましたので、ただ私はこれないからなぜかなと、やっぱり疑問を抱きますので、その部分については今後そういう備考欄には、こういう説明書きをしていただきたいと、そうしたら質問がないと思いますので、その点備考欄に空白を残さないように一つ説明をお願いしたいと、これは要望しておきます。次の部分について。結構です、委員長。

中原委員長 ほかの委員の皆さんいかがでしょうか。

道工委員どうぞ。

道工委員 54ページの負担金、補助及び交付金のところの関西国際空港の南ルートの早期実現期成とありますね。これ以前は、周辺の関空の地図には南ルートが波線で載ってございましたけれども、私も長い間この問題にかかわってきましたけれども、最近またこの問題について、こういう形で負担金をとってやっておられるのか。それとこれから先、どのような形になっていくのかわかれば教えてください。

中原委員長 答弁をお願いします。

寺田まちづくり戦略室地方創生企画政策担当課長 関西国際空港連絡南ルート早期実現期成会分担金についてご回答します。

目的としましては、関西国際空港と地域社会の共存共用を目指し、さらには近郊、南近

畿の発展のため、関西国際空港と内陸部を直結する第二の連絡ルートをはじめとする、関西国際空港周辺地域における交通ネットワークの早期整備を目指すということで、8市2町が加盟しております。

貝塚市、泉佐野市、泉南市、阪南市、田尻町、岬町、和歌山市、海南市、紀の川市、岩出市となっております、分担金につきましては、岬町は1万1,000円で、市につきましては、5万6,000円となっております。

この早期実現期成会分担金につきましては、東京への要望活動に充てている経費と、あと総会を年一回開催しておりますので、その経費に当たる分担金となっております。

中原委員長 補足の答弁をお願いします。

田代町長 補足説明をさせていただきます。活動をやっているのかということのご質問だろうと思います。

年に一回東京のほうに、泉南市長さんが旗振りで、我々陳情に行っております。特に、関係の各先生方、各担当の方にぜひとも南ルートの建設をやっていただきたいということで、一時期少しとまっていた時期もあったんですけども、最近これはぜひとも必要だということで、要望活動をやっているということだけ申し上げておきます。

中原委員長 道工委員どうぞ。

道工委員 うれしいことですが、当初はこれは沈埋法、いわゆる海底にトンネルをつくって、沈埋法でという形で進めてきた事業ですよ。死んだ平島市長が必死になってやっていたけれども。

地図の上では、波線は復活していますか。

中原委員長 答弁をお願いします。

西まちづくり戦略室地方創生企画政策監 この件は、道工委員よくご存じだと思うんですけども、岩出から来ている府道、あれにつなぐという当初の計画が大阪府のほうにあったということで、そこに今おっしゃられたように、海底トンネルで空港島へつなぐというのがもともとのルートの計画だったと思います。

この計画については、いろいろ要望は町長言ったように、国等もにさせていただいておるんですけども、国のほうも財政が厳しいということもございまして、今はちょっと公的な地図にそういう予定図とかはなかなか載っていないかなということで、泉南市さんも中心になって頑張っておられますので、引き続いて積極的に要望していったら、泉南地域の発展のために新しいルートの開拓ということで、岬町もお手伝いをしていきたいと考えてお

ります。

中原委員長 道工委員どうぞ。

道工委員 ぜひともこの問題については、しっかりと国のほうに要望していただきたいなど。特に、風が吹きますと現の橋は通れないということもございまして、岬町にとっても経済効果があると思いますので、この点ぜひともよろしく願いしておきます。結構です。

中原委員長 ほかに委員の皆さんいかがでしょうか。

竹原委員どうぞ。

竹原委員 何点かございます。47ページの委託料ですけれども、下から何行目かな。職員採用試験問題等作成委託料。問題等作成委託料って今、テレビを販わしているような問題もございしますが、岬町の問題を作っていただくのに結構な金額だなと思ってまして、これには試験を実施するときの手数料も含まれているのかなと思いつつ、どのように職員採用の試験を行っているのか、かいつまんで説明していただきたいと思うのが一点目です。

2点目におきまして、次の48ページのこれも下のほうから、負担金、補助金及び交付金というところの一番下、協働のみさきの集い実行委員会補助金ということで、年明けにする協働のみさきのことかなと思われるんですけれども、毎年というか、もう3回されている中で、淡輪の海浜会館で行われていると思うんですけれども、それをほかの場所ですという考えは検討されているのかどうかと。

私の意見としたら、淡輪でももらったら近くていいんですけれども、やはり毎年のことですので、いろいろな場所でももらったら来る人のメンバーも変わるのかなと思いつつ、そういう検討はなされていますかというのを質問させていただきたいと思います。

3つ目に、次のページ、49ページのこれも節で言ったら19負担金、補助及び交付金ということで、危機管理担当の大阪府防災行政無線再整備負担金、金額が大きいので、この大阪府防災行政無線再整備事業というのかかわって、どういう事業であるのか。ちょっと説明をしていただければと思います。3点お願いします。

中原委員長 答弁をお願いします。

廣田（尚）まちづくり戦略室人事担当課長 職員採用試験問題等作成委託料の質問にお答えさせていただきます。

職員採用試験に際し、テストの問題とかそれを使わせていただくということで、委託料として支払っております。

今回平成26年度中、試験は3度行いました。平成26年5月10日の土曜日、これは、

平成25年度の当初採用予定者の3名で、辞退者が出たために追加で急遽、5月10日に試験を行ったものです。中身につきましては、大卒2名程度、社会福祉士1名の合計3名の試験を行いました。

それから、2回目の試験としまして、26年12月14日の日曜日実施したものでございます。これは、通常の平成27年4月1日採用の試験ということで実施しました。

それから、3回目の試験に関しましては、平成27年2月8日実施の分でございます、保健師が急遽早期退職ということになりましたので、その補充としまして、試験を実施しております。

中原委員長 引き続いて、答弁をお願いします。

保井まちづくり戦略室長兼町長公室長 協働のみさきの集いの会場の件でございますが、現在実行委員会において協議する状況になっておりまして、岬町自治区町連合会、岬町商工会、岬町社会福祉協議会、岬町のほうで開催について協議するということになっております。

会場につきましても、駐車場の確保等一定の交通の便も踏まえて検討している状況でございますので、おおむね淡輪のところを基本に考えているところでございます。

中原委員長 答弁どうぞ。

川端まちづくり戦略室危機管理担当課長 大阪府防災行政無線再整備負担金についてご説明します。

この負担金は、大阪府に対して支払いを行っているもので、大阪府が災害時に市町村や消防、自衛隊などの防災機関との情報連絡体制を確保するために、有線に比べて災害に強い無線によるネットワークとして、平成8年から10年度にかけて大阪府が全市町村に整備した、大阪府防災行政無線が15年を経過し、故障の増加や一部機器の部品の供給停止などにより、安定した稼働が困難となっていることから、信頼性の高いネットワークを再構築するために整備を行ったものです。

中原委員長 いかがですか。竹原委員どうぞ。

竹原委員 そしたら、再質問なんですけれども、職員採用の件で3回あったと申されましたけれども、例えば、12月14日の採用試験において、一次試験、二次試験、三次試験というのがあるのかなと思うんですけれども、そういうのはどのような状況でされておるのか、例で構いませんので、どのような採用方法、試験を行っているのかお聞きしたいなと思います。

それと3つ目の防災行政無線におきまして、大阪府に支払っておるということですが、岬町ではどのような整備がされておるのか。それも合わせてお願いします。

中原委員長 答弁をお願いします。

廣田（尚）まちづくり戦略室人事担当課長 試験の内容につきましては、まず通常、第一次試験としまして、筆記試験ということで教養科目の試験をまず行います。それから、同日付で一般性格診断検査と職場適性検査ということで、合計3つの筆記試験を行っております。

それから、二次試験におきましては、集団面接ということで実施しております。

それから、三次試験としまして、最終個人面接という形をとっておりまして、3回の試験をくぐり抜けて採用決定ということをしております。

中原委員長 引き続いて答弁をお願いします。

川端まちづくり戦略室危機管理担当課長 今回の防災行政無線の再整備での主な改良点ですが、まず一番大きなものがデジタル無線の導入をしております。

それと、無停電対策の強化としまして、発電機のタンクを増設しまして、24時間対応のものが72時間となっております。

それと津波監視カメラの設置をしております、これは岬町、泉南市、忠岡町、泉大津市、大阪市の5カ所に設置しております。

中原委員長 竹原委員どうぞ。

竹原委員 職員採用のところにおきましては、三次まで行っておると理解いたしました。

最後の防災行政無線のことですが、このデジタル無線というのは、もう常に岬町と大阪府の危機管理担当がつながっておるという理解でよろしいのでしょうか。

中原委員長 答弁どうぞ。

川端まちづくり戦略室危機管理担当課長 議員おっしゃるとおりです。

中原委員長 ほかに委員の皆さんいかがでしょうか。

副委員長どうぞ。

坂原副委員長 一点だけ確認をお願いします。

64ページの一冊備考欄ですね。一番上から3つ目の広報配付委託料38万8,000円とありますが、これ支障がなければ今わかったらいいんですけど、委託先というのはわかるでしょうか。

中原委員長 答弁をお願いします。

今坂総務部総務課長兼法制文書係長 広報配付委託料は、選挙の広報紙を各戸に、各家に配付していく業務でありまして、その委託料としてここに記載されております。

中原委員長 委託先がどこか、もう一度答弁をお願いします。

今坂総務部総務課長兼法制文書係長 業者名は、サイネックスという業者です。済みません。

中原委員長 よろしいですか。ほかの委員の皆さんいかがでしょうか。

(「なし」の声あり)

中原委員長 ないようでしたら、ちょっと私からも質問があるんですけどお願いできますか。

坂原副委員長 委員長から質問がありますので交代します。中原委員長。

中原委員長 決算書の49ページ、広報公聴費の中で、節13委託料、企画政策担当の法律相談弁護士委託料とありますけれども、法律相談の実績を2013年度と2014年度についてお示しいただきたいと思います。

それから、この企画政策担当というのが、ここの備考欄に幾つか出てくるわけなんですけれども、予算の段階では企画地域再生担当という表記をされておりました。この変更は何か理由があったかなと、ふと思いましたものでお尋ねを合わせてしたいと思います。

それからもう一カ所、55ページの人権啓発費、節13委託料、人権相談事業委託料についても相談の実績を2013年度、2014年度についてお示しいただきたいと思います。

坂原副委員長 答弁をお願いします。

寺田まちづくり戦略室地方創生企画政策担当課長 法律相談の件数なんですけど、2013年度が93件、2014年度が111件となります。

阪本人権推進課長 人権相談事業の委託料ですが、相談件数としまして、平成26年度、延べ件数としましては45件でございます。平成25年度としまして、延べ件数22件でございます。

坂原副委員長 どうぞ。

西まちづくり戦略室地方創生企画政策監 決算書備考欄の担当名称についてなんですけれども、基本的には、現行の所管担当の名前を書くということで記入させていただいておりまして、現在、地方創生企画政策担当という名前になっておりますけれども、企画政策担当という形でわかりやすくさせていただいたところです。

予算書のときには、ちょっとシステムが変更できていなかったということで、昔の担当の名前になっていたかと思いますので、今回は現行の担当がわかるようにということで変更させていただいています。ご了承ください。

坂原副委員長 中原委員長。

中原委員長 人権相談事業の実績について、延べ数をお示しいただきましたが、実数もお示しいた

できればと思います。お願いします。

坂原副委員長 どうぞ。

阪本人権推進課長 平成26年度の相談件数は、延べ件数として45件、実件数としまして27件でございます。

平成25年度の延べ件数は22件で、実件数が19件でございます。

坂原副委員長 委員長に戻します。

中原委員長 どうもご協力ありがとうございます。

ほかの皆さんいかがでしょう。総務費については、質疑ほかにございませんでしょうか。

(「なし」の声あり)

中原委員長 質疑なしと認めます。これで総務費についての質疑を終わります。

続いて、民生費に入ります。決算書の74ページから75ページの目9文化センター費をごらんください。

質疑ございませんか。

(「なし」の声あり)

中原委員長 質疑なしと認めます。これで民生費についての質疑を終わります。

続いて、消防費に入ります。決算書110ページから113ページをごらんください。

質疑ございませんでしょうか。

竹原委員どうぞ。

竹原委員 決算書111ページ、負担金、補助及び交付金の中の泉州南消防組合負担金、3億710万8,000円ですけれども、この金額といいますと、まだ算出方法は統合する前の過去何年間の分を平均して算出していたように思われます。

それで、何年かすると人口割にするのか、面積割にするのか、その割合を五分五分にするのか。七三にするのかという議論があったと思われませんが、その議論というのはどのように進んでいるのであるのか、ないのか。この統合するに当たって、負担金が少なくなるかなという話があったと思うので、その辺の進捗状況を教えていただきたいと思います。

中原委員長 答弁をお願いします。

川端まちづくり戦略室危機管理担当課長 委員おっしゃるように、統合後の負担金の増加を抑えるために、過去3年間、当時平成21年から23年度における投資的経費を除いた平均負担額をベースとして、3市3町の負担金を決定し、統合後より3年から5年を目途に見直しを検討するとされております。今年度、平成27年度から事務担当者により協議を開始し



たところですよ。

中原委員長 竹原委員どうぞ。

竹原委員 今年しておるといことですので、岬町としては、面積が大きい割には人口が少なくて、人口割ということが比率が高ければ負担金も少なくなるといったことだったと思います。

それで今、作業中で申しわけないんですけども、議会のほうとしては、なるべく抑えるものは抑えて効果は大きくという、ちょっとおこがましいというんですかね。でも、それをするために泉州南ということで、広域化したことございますので、ぜひ議会でも意見があるということを出して交渉していただきたいなと、このように思いますのでよろしく願いいたします。

中原委員長 ほかに。消防費についてほかの委員の皆さん、質疑はございませんか。

(「なし」の声あり)

中原委員長 質疑なしと認めます。

続きまして、教育費に入ります。決算書の113ページから129ページをごらんください。

質疑ございませんか。ただいま、教育費について質疑をお受けしております。委員の皆さんいかがでしょうか。

竹原委員どうぞ。

竹原委員 教育費の中で、小学校費なり中学校費、それぞれ上がっているんですけども、臨時職員の賃金ということで上がってきております。

それぞれ小学校、中学校で臨時職員が何人おられるのかというのをお聞きしたいのと、それと学校の先生って言いますと府費負担職員さんでおられますが、町費負担の正規職員というんですかね。そういう方はおられないのでしょうか。

現場として学校の先生は足りているのか、いないのかという、現場の声というのもし聞いていたらどういう声か教えてほしいのと、それに対してどのように考えておられるのか答弁していただきたいと思います。

中原委員長 答弁をお願いします。

内山教育委員会事務局学校教育課主幹兼係長 臨時職員の雇用数ですけども、まず小学校で介助員が16名、用務員の方が4名、図書司書の方が1名となっております。

次に中学校ですが、介助員の方が2名、図書司書の方が1名、校務員の方が2名となっております。あと、スクールバスの運行もしておりますので、そちらで1名の方を雇用し

ている状況になっております。

あと、2問目の質問なんですけれども、正規職員、町費の正規職員は雇用しているかというんですけれども、町費の負担の職員はいません。

中原委員長 今、質問の中で現場の教員が足りているかというような声がもし聞いているのであったらということがありましたので、廣田教育次長お願いします。

廣田（節）教育委員会事務局教育次長 教職員につきましては、基準にのっとって配置をしております、不足はしておりません。

中原委員長 竹原委員どうぞ。

竹原委員 以前、何かのときに聞いた話では、小学校の一学年の数が75人から80人になれば2クラスが3クラスになるねんとか、3クラスが2クラスになる瀬戸際やという話で、もし2人の府費負担の職員のところが3クラスになったら一人雇わなあかんねんとか、私としたら淡輪小学校の話ですけれども、1学級に36人も37人もおったら多いなとは思ってまして、できるだけ35人まででしてほしいなという希望があったので、学校の先生の数にちょっと敏感になっているときはあったんですけれども、その点、今、教育現場において、2クラスのところを3クラスにしてほしいという声とかは特に上がっていないのでしょうかね。

中原委員長 答弁をお願いします。

廣田（節）教育委員会事務局教育次長 淡輪小学校の6年生におきましては、通常2クラスの人数なんですけれども、現状は加配の教諭で3クラスで運用を行っております。そういう例もございます。

中原委員長 竹原委員どうぞ。

竹原委員 ということは、もう加配の分でということは、府費負担の職員さんで通常あり得ない2クラスのところを3クラスにしているといったことですので、その点納得いたしました。ご苦労かけているなと思っていましたので、いい傾向かなと思いますので、またその点そういうような事例が出てきましたら、そういうような前例も出していただいて、そういうように取り組んでいただきたいなと思います。

中原委員長 ほかの委員の皆さんいかがでしょうか。

田島委員どうぞ。

田島委員 それでは、128ページの共同調理場費、これ毎回聞いているように思うんですけれども、学校給食の運営等について確認したいんですけれども、この食育指導というのは大変

難しいと思うんですね。

そこで、これを評価する学校給食運営審議会委員ってあるんですよ。この委員さん何名くらいの構成で、そしてこの給食を年間何回くらい試食していただいて、そして、どの程度ご意見、提案、意見等があるのか、参考にちょっとそういう事実があれば説明を求めます。

中原委員長 答弁をお願いします。

竹下教育委員会事務局給食センター所長兼係長 ただいまの質問で、学校給食運営審議会、委員は10名を持って組織し、学識経験のある者、岬町の幼稚園、小学校及び中学校の保護者代表5名、教職員の代表が小学校の校長1名、中学校の校長1名、その他委員、委員会が必要と認める者として商工会代表と農業委員会の代表2名を選出しております。以上10名です。

中原委員長 田島委員どうぞ。

田島委員 多岐に渡った委員さんがおられるということですね。そこで、食育もあるし、やはり食材の賄い材料等々もあるし、その部分について今まで委員さんから、学校給食はこういう方向に切りかえたらいいんと違うかとか、いろんな提案なり希望なり等々はありましたでしょうか。なかったか。ただ、漠然と委員会を開いておいしそうやねで終わったのか、それともやはり地元の食材でこれ何とか使われないかと、管理栄養士さんも含めてそういう議論はなかったですか。

中原委員長 答弁をお願いします。

竹下教育委員会事務局給食センター所長兼係長 毎年運営審議会の中で議論しておりますが、岬町内、泉州の食材、大阪府の食材というものを多く取り入れるということで、なお安心安全でおいしい、かつ安価な食材の納入について商工会等に配慮をお願いしているところでございます。

中原委員長 田島委員どうぞ。

田島委員 わかりました。一番子どもたちにそういう食材を提供する側としたら、やはりこの審議会というのは、本当に大変な役目を負っていると思うんです。でないと、やはり安全安心なおっしゃるとおり食材を提供する、そして、それをやはりメニューを見て、管理栄養士さんといろいろ議論して、そして献立をするというような大変な仕事と思うんです。大体内容についてはわかりました。

この農業関係者というのは、農業を作物を耕作している方ですか。それとも農業委員会

の当職の方ですか。どの方ですか。

中原委員長 答弁をお願いします。

竹下教育委員会事務局給食センター所長兼係長 農業委員会の会長に来ていただいております。

田島委員 会長さんが当職で来ているんですね。

竹下教育委員会事務局給食センター所長兼係長 当職として。

田島委員 農業経験者ですな。会長ということは、当然ね。わかりました。

そしたら、委員会の運用について大体把握しました。そしたら、賄い材料費の6,096万円の部分について、これ私、先般一般質問で給食費無料ということを言っている以上責任がありますので、やはり今後将来展望を考えたら、給食費の部分については、町長にもお願いしている部分ですけども。

ただ、この賄い材料費というのは、本当にこの6,096万が不用額も出ていますけれども、67万7,000円、そこで一つ確認したいのは、この材料はどこから調達して、地元で賄っているのか、足りない分は商工会を通じて他の市町村で賄っているのか。

それともその中で、オール国内産か、それともこんなこと言ったらいかんねんけど、外国産か信用できない外国のものを入れているのか。その部分と、そしてそのチェックはどこでチェックされているのかということをひとつお願いしたいと思います。

中原委員長 答弁をお願いします。

竹下教育委員会事務局給食センター所長兼係長 賄い材料費の6,096万円のうち、公益財団法人大阪府学校給食会が2,340万5,000円の全体の38.4%を占めております。

主に、米飯の委託に係る経費やパン、工賃、また、パン用の小麦粉、牛乳、缶詰等を調達しております。

町内業者では、岬町商工会物資納入組合、岬町米穀小売組合やパンの製造や米飯業務経費による3,166万5,000円の全体の51.9%を町内業者が占めております。

それで、賄い材料といたしましては、ほぼ国内産で賄っております。

中原委員長 田島委員どうぞ。

田島委員 一応疑ったら切りがないんですけども、国内産、国内産って加工したら、どこの国のものかわからんですね。結局、収穫したものは何々産、メイドイン何々、ただ、加工してしまったら、これは別にメイドイン何々を説明する必要ないと思いますわな。ここが一番私が心配するのであって、やはり賄い材料費をやはり節約すれば当然無理な購入になってきますので、できればやはり食育指導するんですから、学校教育では、これはあなたたち

が住んでいるところの食べ物やでと。こういう自信を持った食育教育をしないと、これは何々県でよそにあるのは、これだけの部分で、地元にあるのはこんなやで、ブレンド品でないでと、こういう教育はやはり子どもたちにとったら、郷土愛じゃなくしてしまうのですね。

ということで、やはりこの食材については、そりゃ当然調理も加工もしづらいと思います。手間暇かかると思います。やはりそういう管理栄養士さんを泣かすような食材になると思うんですよ。しかし常々皆さんおっしゃるとおり、安全安心な食育教育といたら、やはり手間暇をいたら安全安心なものできませんわな。

ということで、結局そういうことで毎回言っているんですけども、どこ産ですか、どこから調達していますか、結局38%の部分、町内は59%ということでやっているんですけども、できたらやっぱり地元の地産地消という方向性に持っていつていただいたらありがたいんですけどね。

そういう今のこのバランス的に、町内で何とかできないかということになったら、当然農業委員会にもお願いして、やはり耕作者にもお願いして、やはり岬町の子どものために、どんなものでもいいから持ってきてよと、そしてメニューは立派な管理栄養士がおるんだから、メニューはきっちりこしらえるから、ネギ一本でも持ってきてくださいよという感じにね。

例えば、道の駅で、やはりそういう売れ残ったと言ったら語弊になりますが、道の駅で次に回す部分を学校教育のそういう食材に持っていけば、岬町で売っている品物やで、それを学校でも使っているんやでという方向性の学校教育をしていただきたいなと思いますので、給食費、無料の部分は別として、やはり賄い材料はできる限り岬町で海産物、農産物を何でも調達できるようにしてもらわんと、加工品を幾ら国内産といっても、よそから買った部分を加工したやつを国内産と言われても仕方ないですよ。その部分を一度、今後こういう賄い材料費の調達には、より以上にチェックできるようにお願いしたいんですけども、できますか。食材のチェックね。それは、ちょっとこの場でお話をいただきたいんですけども。

中原委員長 答弁をお願いします。

竹下教育委員会事務局給食センター所長兼係長 岬町産は、現在ワカメ、干しいたけ、いかなごのくぎ煮、古代米の4品目ですが、泉州産は玉ネギ、キャベツ、青ネギ、こまつな等、季節によっていろいろございます。

地場産食材給食は理想ではございますが、栄養教諭も日々食材を吟味しているところでもあります。地元生産者の規模が小さく、一定量を指定の日時に必ず納入していただくというのが前提となり、毎日材料の調達や納入がおくれますと、給食の提供ができないこととなるため、大変現状では難しい状況にあります。

今後も岬町では、商工会物資納入組合に対して、岬町産、泉州産、大阪産のものを取り入れる旨、要望しております。

中原委員長 田島委員どうぞ。

田島委員 本音を説明、回答をいただいたと思うんです。ぶっちゃけ、やはり岬町では、その調達が無理というのはそれは当然、皆さん認識していると思うんですよ。無理ですけども、今後、そういう具合に無理を可能にしようと思ったら、やはりこの農政問題に力を入れないと、専従農家というのも数少ないです。

そうしたら、専従農家でなくて、市民農園に携わっている趣味的な方の作物も調達できますので、農政問題をおろそかにしている問題やから、結局地元での調達ができない。当たり前前の話ですね。答弁してくれた。

ということで、農政をおろそかにしたら自給自足ができないのは当たり前ですね。やはり今後休耕田とか耕作放棄地をこの現状で置いておく自体が、岬町の食の自給自足に結局マイナスに落ち込ますということですね。

私、この前のため池なくしたらどうなるんやと、やはり作物は太陽と水と肥料がなかったら作物育たんよと。ということで、何か一つ欠けていると思うんですよ、岬町はね。だから、まず放棄地、休耕地を見直さないと学校給食の賄い材料費にも調達できないという、そういう部分がありますので、一つ給食担当の方にはいい答えをもらったので、それは岬町でこれからどうするということを議論に今後私も入っていきますので、農政問題に今後開いて、そういうように持っていきたいなと、かように思いますので、とにかく外国産、危険なものは食べさせないように一つ、担当課でチェックしてくださいよ。それは、この場をかりてお願いしておきます。でないと、ああいう怖いものは蓄積しますので、私等だったらもう何食べても先短いから大丈夫だけど、これから若い子にそんな危険なものを食べさせたら、やはり一番怖い問題ですので、一つ担当課においては、一応食材の調達先、安全であるかということをチェックよろしく願いいたします。私からは以上です。

中原委員長 ほかに委員の皆さんいかがですか。

竹原委員どうぞ。

竹原委員 項で言いますと、社会教育費の中になると思うんですけども、124ページの淡輪公民館費の中で需用費、節で言ったら11需用費、修繕料26万4,600円と出ております。建物の割には、少ないのだなとは思っておるんですけども、恐らく建物自体がかなり老朽化してきておると。

同じく配られておりました、26年度の教育委員会の事務及び管理の実施事業の執行状況の点検評価報告書というのを見させていただいても、この淡輪公民館運営事業につきましてはということで、早急に検討しなければならない課題であると。文化センター運営事業並びに、青少年センター運営事業と合わせて引き続き検討をしまいと、早急に検討しなければならない案件ですねということを報告されておられますけれども、修繕料のところから見ると、余り手を入れても一緒だよって、最小限で直しておこうかというように見受けます。

その中で私が聞きたいのは、この公共施設のあり方委員会というのがずっと開かれていたと思うんですけども、その話がちょっととまってきているのかなとも思いまして、そのあり方委員会というので検討されているのかどうか、というのを一度確認したいなと、行革の担当かな。確認したいなと思うのと、次の来週開かれる行革の委員会で審議すると言うのでしたら、それはそのときに聞こうと思いますけれども、ないようであればこの公共施設はどういうようになるねんと、大体の流れを聞きたいなと思います。よろしくお願いします。

中原委員長 竹原委員、公民館の修繕料の中身についても報告を受けますか。答弁を受けますか。

竹原委員 そうですね。わかるようであれば。

中原委員長 そうしましたら、公民館の修繕料の内訳といいますか、事業内容と、それから公共施設のあり方の考え方について、答弁をお願いします。

福井生涯学習課淡輪公民館長 修繕料のほうなのですが、公民館全体の予算内で、毎年修繕部分に配分された予算の範囲内で優先順位をつけて補修を行っているところでございます。

平成26年度につきましては、26万4,600円の決算額で、屋上部分の一部分の漏水修理を行いました。平成25年度につきましては、44万9,400円で、3階の廊下の床の修理及び天井構造部の破損箇所を修繕いたしました。

平成24年度につきましては、92万693円で、1階及び2階の廊下の床を修理し、及び談話室のサッシ部分に水漏れがありましたので、修理を行ったところでございます。

今後も緊急性が生じたときは、補正等をお願いいたしまして、修理補修を考えていると

ころでございます。

中原委員長 引き続いて、答弁をお願いします。

四至本財政改革部長 あり方委員会と申しますのは、前に教育委員会独自で立ち上げて進めていたものと思うんですけれども、それにつきましては、私のほうで承知するところでは一旦経費、それと耐震性の問題があり、途中で結論が出ずにとまっている状況であると認識しております。

今回行革委員会につきましては、それに関しての内容の説明というのはございません。

中原委員長 竹原委員どうぞ。

竹原委員 この評価にもよるんですけれども、早急に検討しなければならない課題であるということですが、行政の考え方としたら、どのように考えておられるのか。先ほど福井課長の話を聞くとだんだんと修繕料が減ってきているということ、増えていって当然やねんけれども、できているということは見限っているのかなとも思いますので、どのように大きな方針を思われているのか、誰か答弁していただければと思います。

中原委員長 答弁いかがでしょうか。

笠間教育長 これは今、26年度の決算なんですけれども、24年度に一応あり方、淡輪公民館がどうあるべきかという結論までいつているかどうかは、ちょっとはつきりできませんけれども、先ほど財政改革部長のほうから発言をいただきました。本当に経費がかかる、耐震がなされていない、こういうことが結論で出ておりましたけれども、一番大切なのは、公民館を使っている公民館クラブが現状で、ちょっと言葉を間違っていたら申しわけございませんけれども、今の段階でまだまだ使わせてほしいという言葉がございまして、それがやはりなくなったら困るということがこの事業の必要性、目的の妥当性の中で大きいということを示されているところでございます。

ただ、施設につきましては、先ほども言いましたように改修するのであれば、なかなか経費もかかる。そして、あの場所がどうかというようなこともございます。

そして、またどこかに新しい場所を設けるかということについても、非常に大きな経費というのが出てきますので、現段階では、先ほど財政改革部長からの回答と同じになりますけれども、私のほうからも公民館クラブがまだ今のままだでも何とか使いたいと、確かに期限であるとか、高い場所にあるというようなことも勘案しているわけでございますけれども、現状維持と、現状で何とか延命を図っているというようなことでございますので、ご理解いただけたらと思います。私のほうからは、これだけでございます。



中原委員長 はい。町長のほうからもお話あるようでしたら答弁お願いします。

田代町長 公民館について、今、教育長が答弁したとおりであろうと思います。

ただ、全体的に公共施設が老朽化してきておって、先ほどの担当の説明にもあったように、修繕をしながら施設を有効活用してきているわけですが、今のところは、そういう状況で何とか補助をしていけると思うんですけれども、ただ耐震性のことがありますので、万が一地震が起きた場合に倒壊するようなことがあったら、これは大変なことです。

それと、公共施設のあり方についての検討会を庁舎内で作っておりますけれども、今、担当のほうから、まだ十分な会議はやっておらないようですけれども、今後、検討していくには、やはり一番先に要るのはお金ですね。お金がついて回ってくるということと、それと今後、庁舎の耐震化の問題、建てかえの問題がきております。そういったことを考えると、やはり複合施設というものを検討しながら、公共施設のあり方を検討していく。そして、できるだけ国費を受けて、そして単費を少なくするというような状況を今後は検討してまいりたい。

その中で、先ほど田島委員からも出ておりましたけれども、やはり不要な建物については、もう言えばつぶしてしまっ、そして有効利用、活用を図っていく。そういう中で、財源を確保していくというようなことにしないと、ある一定の限られた財源の中で、あれもこれもということとはなかなか難しいと思います。まず、優先するのは、やはり子ども、お年寄り、そういったところを優先にした施設を十分考えていく必要があると。

それと、最終的にはやはり岬町の伝統文化、これをしっかりと守っていけるような施設も考える必要があるかなと、このように思っています。

教育の問題は、今、教育長が答えたとおりでございますので、今後の課題としては、そういった課題が多く残されておりますので、議会の皆さんの了解と住民のやはり理解を得る必要があるかなと、このように思っております。

中原委員長 竹原委員、どうぞ。

竹原委員 限られた財源の中でということで、町長からも不要なものは売っていった財源をつくるといった方針が示されましたので、途中でとまっておるのかなと思われる、あり方委員会というのをやはり頻繁に開催していただきたい。もっと早急にと言ったら何なんですが、検討をしていただきたいなとこのように思いますので、要望させていただいておきます。私からは以上です。

中原委員長 ほかに委員の皆さん、質疑はいかがでしょうか。副委員長もよろしいですか。

(「なし」の声あり)

中原委員長 ないようなら、私から一点だけお聞きしたいことがありますのでお願いします。

坂原副委員長 進行を交代します。中原委員長。

中原委員長 決算書の117ページ、118ページにまたがって、小学校費の中で教育振興費というのがあります。それから、同じように中学校費でも120ページに教育振興費というのがあります。いつも確認をさせていただいておりますが、要保護、準要保護の児童生徒にかかわって、2013年と14年の要保護、準要保護の児童生徒数、小学校、中学校ごとにお聞きをしておきたいと思います。お願いします。

内山教育委員会事務局学校教育課主幹兼係長 まず、2013年度、平成25年度ですけれども、小学校で準要保護の児童が127人、要保護の児童が5人、全体に占める割合が17.2%です。

同じく中学校ですが、準要保護の生徒数が74人、要保護の生徒数が4人、割合が17.8%です。

次に、2014年度、平成26年度ですが、小学校で準要保護の児童数が103人、要保護の生徒数が4人、割合が15.2%です。

同じく中学校ですが、準要保護の生徒数が75人、要保護が2人、割合が17.5%となっております。

あと、今年の3月の総務文教委員会で、同じく中原委員のほうから、平成26年度の小学校と中学校の就学援助の受給数とその割合の答弁につきまして、答弁させていただきましたが、今回平成26年度の決算の内容を精査しましたところ、その内容に誤りがございましたので、今回報告させていただいた数字が正しい数字となっております。申しわけございません。

その答弁のときですけれども、平成26年度の小学校の要保護数を5名、その割合は15.4%と答弁しております。

同じく中学校の要保護数を4名、割合を17.9%と答弁しております。正しくは、先ほどの答弁のとおり、小学校の要保護は4名、割合が15.2%、中学校の要保護の生徒数が2名、割合が17.5%でした。申しわけございません。訂正させていただきます。

坂原副委員長 中原委員長。

中原委員長 訂正については、その会期内にしかできないということが基本でありますので、以後気をつけていただきたいと。

今、正確な数字について確認をさせていただきました。もう少し重ねてお聞きをしますが、2014年度においてもこの間、とってこられた基準のまま維持をされていると理解をすればいいのかという点と、それから、この基準については今後の見直しはプラスとマイナス両方あると思いますけれども、どちらも含めて見直しするというお考えは持っておられるのかどうか。この2点をお聞きをしたいと思います。

坂原副委員長 答弁をお願いします。

内山教育委員会事務局学校教育課主幹兼係長 26年度につきましては、基準の見直しは行っておりません。今後の見直しについてのご質問なんですけれども、今後の岬町の財政状況、あるいは、他の市町村の状況などを参考にしまして、検討してまいりたいと考えております。

中原委員長 ありがとうございます。

坂原副委員長 では、進行を戻します。

中原委員長 それでは、ただいま教育費について質疑を行っているところでありますが、委員の皆さんよろしいでしょうか。

(「なし」の声あり)

中原委員長 それでは、これで教育費についての質疑を終わります。

続いて、公債費に入ります。決算書の130ページから131ページをごらんください。質疑ございませんか。

(「なし」の声あり)

中原委員長 なしという声をいただきました。質疑なしと認めます。

これで、公債費についての質疑を終わります。

続いて、諸支出金に入ります。決算書の131ページから132ページをごらんください。ただし、131ページの目4、海釣り公園管理基金費は、他の委員会の所管ですので除きます。

それでは、諸支出金についてご質問ある方はお教えください。委員の皆さん、いかがでしょうか。

(「なし」の声あり)

中原委員長 よろしいですか。それでは、質疑なしと認めます。

これで、諸支出金についての質疑を終わります。

続いて、予備費に入ります。決算書の132ページをごらんください。予備費について質疑ございませんでしょうか。

竹原委員、どうぞ。

竹原委員 予備費の中で、内訳を書いていたと思いますが、文化センター費へ充当とございますが、これは予備費を使わなければならないような何か突発的なことが起きたのかなと思うんですけど、どのようなことが起きたのかな、確認させていただきます。

相馬財政改革部副理事兼財政課長 予備費の関係ですので、私のほうからご答弁させていただきます。

予備費につきましては、地方自治法第217条で科目の設置が規定をされております。予備費という性格上、予算編成時に予期しなかった支出に対しまして、本来なら補正予算等で対応すべきところを、緊急性の観点から支出をしたものでございます。

ご質問の内容ですけれども、文化センターの漏水の修繕とその漏水による水道代でございます。

修繕につきましては、20万1,000円、水道代につきましては、15万円でございます。

中原委員長 竹原委員よろしいですか。

ほかの委員の皆さん、いかがでしょうか。

(「なし」の声あり)

中原委員長 質疑なしと認めます。

これで予備費についての質疑を終わります。

以上で、一般会計歳出についての質疑を終了いたします。

続いて、討論を行います。討論ございませんか。

(「なし」の声あり)

中原委員長 討論なしと認めます。これで討論を終わります。

続いて、採決を行います。

議案第68号「平成26年度岬町一般会計決算認定の件」のうち、本委員会に付託された案件について、原案のとおり認定することに賛成の方の挙手を求めます。

(挙手全員)

中原委員長 満場一致であります。

よって、議案第68号のうち、本委員会に付託された案件は認定されました。

続きまして、議案第75号「平成26年度岬町淡輪財産区・特別会計決算認定の件」から、議案第77号「平成26年度岬町多奈川財産区・特別会計決算認定の件」までの3件

を一括議題としたいと思います。よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

中原委員長 異議なしというお声をいただきました。ありがとうございます。

それでは、議案第75号から議案第77号の3件について、一括議題といたします。

本件については、本会議で説明を行っておりますので、理事者の説明は省略したいと思います。よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

中原委員長 では、決算書の226ページから252ページをごらんください。質疑ございませんか。

田島委員、どうぞ。

田島委員 財産区関係だと毎度おなじみに、また田島が質問ということで、えらい貴重な時間申しわけございません。

歳入の部分で、財産売払い収入の部分でマツタケの売払い収入、19万2,000円、深日の財産区、失礼しました。次、自分の字のことばかり聞いているので、よその話を聞いたら失礼だと思って聞かないんけれども。

239ページ、下から3行目のところで、生産物売払い収入の部分で、これずっと昔からマツタケ山の入札とかそういう売払い、19万2,000円の産物ができて売上できたということですが、19万円を儲けるのに、このマツタケ山の管理運営は幾らかかっているか教えてほしいんですけれどもね。

19万円のマツタケをとるのにどれだけの、下草刈りもせんとマツタケなりませんし、やはりこの価格でどのくらいの予算をつくる。ということは、歳出の部分でまだはっきり答弁うをもらっていないので、言いづらいんですけれども、結局あれですな。

山林作業人夫代が、不用額が44万5,000円出ていますが、その部分について150万円ほどかかっているんですけれども、これはどういう山林作業人夫の仕事か。これ、マツタケ山の維持管理をするのに下草刈りに行ったのか、これ全然見えてきていませんので、その部分の説明をお願いしたいと思います。

中原委員長 答弁をお願いします。

今坂総務部総務課長兼法制文書係長 まず、栗林賃金についてですが、151万2,000円の内訳なんですけれども、もちろん深日財産区、栗林ショウブ園と周辺の整備等、林道等をやっております。

これは、真夏の一カ月間を除きまして、11カ月間の委員さんの作業に従事した賃金という形で支出しておりますけれども、マツタケ山を整備するための費用として支出しているわけではございません。

また、報償費54万円というのがございますけれども、これも山林の巡視のための費用でございまして、財産管理上巡視等が必要になってきます。その際に、やはり境界線のところの草刈り等、委員さんにやっていただいておりますので、その費用がかかっているのかなということで、特にマツタケ山の整備のために費用を出しているわけではございません。

中原委員長 田島委員、どうぞ。

田島委員 私も古い人間で、マツタケ山にマツタケのある環境というのを十分承知しているんです。

放ったらかしでマツタケはなりません。毒マツタケはたくさんありますけれども、そんな価値のあるマツタケ放ったらかしでは絶対ならないですよ。シダとかそういう整理せんと。こんな山持っていたらすばらしいですね。放ったらかしでなるマツタケ山ってすごいよ。

そして、栗林とかショウブ園の山林作業人夫代、これ何名の方が携わって、何日間で作業をしたのですか。その賃金、一日幾らくらいでいっているかということ、これも確認したいのでね。ただ漠然と栗林の整備、知っていますよ、栗林も私も行ってきましたし、ショウブ植えているところも見てきました。

この人夫代というのは、これは委員の報償費別ですね。この報償も入れて人夫代も入れて、委員さんがどれだけの報償をいただいているかも簡単にわかったら教えてください。

中原委員長 答弁お願いします。

今坂総務部総務課長兼法制文書係長 人数なんですけれども、委員7名で月平均2回から3回作業をしております。大体月平均15名程度延べ出ているようになっております。

中原委員長 時間のこととかもちよっとお聞きになりましたかね。

田島委員 一人でトータル幾らくらい報酬を支給しているんですかということを聞いているんです。

中原委員長 答弁もう少し詳細に渡ってお願いできますか。

今坂総務部総務課長兼法制文書係長 一人当たり一回9,000円の支出になっております。

田島委員 9,000円かける3回。

中原委員長 月にですか。

田島委員 2回か3回まわっていると言っているんでしょう。

今坂総務部総務課長兼法制文書係長 月平均2回から3回まわっております。

田島委員 それかける12か。36回やな。

今坂総務部総務課長兼法制文書係長 夏の暑い8月等は休みになっていますので、11カ月間でございます。

田島委員 11カ月かける一日9,000円やな。それだけの管理をお願いして、マツタケ山は全然手入れしていないというのは、これまたちぐはぐな話でね。こういう説明では、ちょっと納得できない。

山の巡視というのは、何名で年間どれくらい巡視に行っているんですかな。

中原委員長 答弁をお願いします。

今坂総務部総務課長兼法制文書係長 巡視につきましては、延べ約6人で年間15回程度、月平均1回から2回程度となっております。

田島委員 これも一日9,000円ですか。

今坂総務部総務課長兼法制文書係長 一日6,000円でございます。

中原委員長 田島委員、どうぞ。

田島委員 こういう作業をした、作業日報等々をつけているんですか。それは、井勘定でそんなんしているんですかな。Aさんが年間どういうことをした。Bさんがどういうことをしたということもしておかないと、やはり調査されたら答えられないような状態じゃ困りますわな。やはりどの方がどの巡視して、どの方がどの下草刈りをして、マツタケ山の手入れをしたということも、これ説明を求めたら説明できるようにしておいてくださいよ。今日のところは、それは聞きませんが、将来的に私が聞く恐れありますから、それははっきりしていただかないと。

前日も車両の借り上げ料の部分についても、説明を求めたんですけども、今回は車のことは除外します。

ということで、この管理状態、もうちょっとはつきり次回は、今日のところはもう結構です。次回のときは、説明していただけるような資料を出してくださいよ。

中原委員長 田島委員、どうしましょう。今、答弁手が挙がっておりますけれども。

田島委員 出せるのだったら出していただいてもいいけれども。

今坂総務部総務課長兼法制文書係長 日報につきましては、日報をいただいた上で賃金、報償費等を支出しております。

中原委員長 では今、田島委員のほうから資料でもって、こういった内容についてまた説明をいただきたいという要望がありましたけれども、田島委員どうぞ。

田島委員 私は何で聞くかといったら、やはりこういう財産区の方にいつもお世話になっています。

なっていますけれども、今の答弁では、マツタケ山は放ったらかしでマツタケがなるという  
ような感じの答弁だったら、結局これはどうなっているねんと、そういう疑義が感じる  
のがやはり委員としての質問です。

ということで、やはりはっきりこういう下草刈りに幾らかかっていると、そして、い  
つまでこの事業を進めるのだということも聞きたいし、やはり私が字の財産区の運用につ  
いて、気になるのは字に住んでいる議員の責務ですので、後刻で結構です。そういう今、  
質問した部分についてきちっとできる資料、私宛てにポスティングしておいてください。  
他の委員には結構と思います。私だけのポスティングをしてもらって、また次に向けて質  
問したいと思います。

委員長、結構です。これだけ資料を請求していますので。

中原委員長 よろしいですか。

ほかに手が上がっておりますので、道工委員どうぞ。

道工委員 田島委員と関連するんですけれども、特に私は淡輪地区ですので。232ページの山林  
作業人夫賃、それから委託料の4つ委託料出ていますね。これは、それぞれどこにされて  
いるか、人夫賃はどこへお願いしているのか教えてください。

中原委員長 答弁お願いします。

今坂総務部総務課長兼法制文書係長 山林作業人夫賃に関しまして、167万4,000円決算上  
がっております。作業の場所につきましては、愛宕山地内、旧の淡輪漁港付近、青少年の  
森付近等、作業軽微な清掃、後片づけ、草刈り等を実施しております。

道工委員 誰がですか。

今坂総務部総務課長兼法制文書係長 この実際、実施につきましては、財産区委員さんが実施して  
おります。中原委員長 道工委員は、2つの事柄をお聞きになりましたかね。委託料で  
すね。草刈り委託料のことですかね。該当箇所はわかりますか。答弁お願いします。

今坂総務部総務課長兼法制文書係長 草刈り委託料、この件につきましては、愛宕山地内の一部、  
その周辺の法面等の傾斜地の除草等を実施しております。

道工委員 枯れ松の剪定作業も委託料も全部一緒ですか。

今坂総務部総務課長兼法制文書係長 場所につきましては、大体そういう地内で実施したものでご  
ざいます。

道工委員 どこにされているんですか。委託先。



今坂総務部総務課長兼法制文書係長 委託先は業者に委託をしております。

中原委員長 業者名は問いますか。

道工委員 財産区の委員さんも一生懸命やっていたのは、十分認識しています。ただ、いろいろ先ほど田島委員がおっしゃっていましたが、委員の中からこんなことをしていていいのかなというようなことも昔ありましたので、しっかりと一つそれぞれの作業の中身については、チェックをしておいていただきたいということを私からもお願いしておきます。

中原委員長 それでは、竹原委員どうぞ。

竹原委員 一番最初229ページですね。財産収入のほうでいったら1番、財産運用収入と2番の財産売払い収入のところに関連しているんですけども、今回土地を売払い収入した1,880万円ですかね。これは、一件じゃなかったような気がするんですけど、これは何件分やったかなと思うのと。

それと運用収入において、今まで家賃をいただいていたところが、売ったことによって次は減るのかなとは思いつつ、あとこの貸付しているほうは何件に貸しているのかなと。それだけ確認させていただきたいと思います。

中原委員長 答弁をお願いします。

今坂総務部総務課長兼法制文書係長 土地売払い収入につきましては、2件の実績でございます。あと、土地貸付収入につきましては、貸付件数は14件でございます。

中原委員長 竹原委員どうぞ。

竹原委員 淡輪財産区の収入になる財産を貸付というのも、切り売りして、だんだんと減ってきているのかなと思われる中、まだ14件借りていただいている方があると確認させていただきましたが、だんだんと借りられている方が売ってくれということを言っているのかなと思って、財産区としては、もう売ってくれという申し出があったら、もう売るということになっているのでしょうかね。それだけ確認させていただきたいと思います。

中原委員長 答弁をお願いします。

今坂総務部総務課長兼法制文書係長 先ほどの土地の売払い収入、実績2件というのも、実際借り受け人の方から売払いの申し出があったものでございますので、今後につきましても、そういう申し出があれば、売払いのほうを進めていきたいと考えております。

中原委員長 町長どうぞ。

田代町長 ちょっと補足させていただきます。以前、この愛宕山の売却についての問題で、地籍の

整理ができていなくて、地籍を整理して、それが終わって、それで各個々に売ってほしいというところについては、順次町が売却をしていくということを議会のほうにもお示しさせていただいております。

その関係上で今、こうやって1件、2件ですけれども、希望があったら売却していくということで、土地の整理はもう全て終わっておりますので、あとは法面とかそういったところがあって、法面の鑑定とかいろいろ問題が出てくると思いますけれども、しかしいい部分はやはり観光として残しておきたい。現在住んでおられる方、また建てておられる方については売却していきたいと思っております。

中原委員長 ほかに委員の皆さん、いかがでしょうか。

(「なし」の声あり)

中原委員長 これで3件についての質疑を終わります。

続きまして、議案第75号「平成26年度岬町淡輪財産区特別会計決算認定の件」について討論を行います。

討論ございませんか。

(「なし」の声あり)

中原委員長 討論なしと認めます。これで討論を終わります。

続いて、採決を行います。

議案第75号「平成26年度岬町淡輪財産区特別会計決算認定の件」について、原案のとおり認定することに賛成の方の挙手を求めます。

(挙手全員)

中原委員長 満場一致であります。

よって、議案第75号は本委員会において認定されました。

続いて、議案第76号「平成26年度岬町深日財産区特別会計決算認定の件」について討論を行います。

討論はございませんか。

(「なし」の声あり)

中原委員長 討論なしと認めます。これで討論を終わります。

続いて、採決を行います。

議案第76号「平成26年度岬町深日財産区特別会計決算認定の件」について、原案のとおり認定することに賛成の方の挙手を求めます。

(挙手全員)

中原委員長 満場一致であります。

よって、議案第76号は、本委員会において認定されました。

続いて、議案第77号「平成26年度岬町多奈川財産区特別会計決算認定の件」について、討論を行います。

討論ございませんか。

(「なし」の声あり)

中原委員長 討論なしと認めます。これで討論を終わります。

続いて、採決を行います。

議案第77号「平成26年度岬町多奈川財産区特別会計決算認定の件」について、原案のとおり認定することに賛成の方の挙手を求めます。

(挙手全員)

中原委員長 満場一致であります。

よって、議案第77号は、本委員会において認定されました。

以上で、本委員会に付託を受けました議案8件については、全て議了いたしました。

本日の審議経過並びに結果については、次の本会議において委員長報告を行いますので、委員の皆様方のご協力をお願い申し上げます。

これで、総務文教委員会を閉会いたします。お疲れさまでした。

(午後3時07分 閉会)

以上の記録が本町議会第3回定例会付託委員会の会議のてんまつに相違ないことを記するため、ここに署名する。

平成27年 9月9日

岬町議会

委 員 長      中   原      晶